

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻業績リスト (2008年1月1日~12月31日)

看護科学コース

基礎看護学講座

著 書

若村智子, 深井喜代子・前田ひとみ監修: 生体リズムとホメオスターシス. 新生理学テキスト, 南江堂, 2008: 398-406.

若村智子, 清水 勇・大石 正監修: ヒトの生活を支配する体内時計のリズムと健康. リズム生態学, 東海大学出版会, 2008: 206-222.

若村智子: 生体リズムと健康, 若村智子編. 丸善出版, 2008: 1-43, 75-107, 135-154.

菅 佐和子, 十一元三, 桜庭 繁: 健康心理学 [第2版]. 東京: 丸善出版, 2008: 総頁数202.

原著論文

Chikamori E, Sudo T, Masuda A, Muramatsu K, Yoneda M, Wakamura T, Li Y, Tokura H, Oishi T: Black light as a Zeitgeber for the circadian locomotor activity and body temperature rhythms in hairless mice. Bull. Studies, 2008; 14-21.

Nakayama Y, Takegami M, Chin K, Sumi K, Nakamura T, Takahashi K, Wakamura T, Horita S, Oka Y, Minami I, Fukuhara S, Kadotani H: Sleep-Disorders breathing in the usual lifestyle setting as detected with home monitoring in a Japanese male working population. Sleep, 2008; 31: 419-425.

齋藤ゆみ, 笹山 哲, 菅 佐和子, 池本正生: 色彩映像の心理的効果—映像システムの併用による色彩映像の感情刺激効果の検討—. 日本補完代替医療学会誌, 2008: 5: 225-232.

総説・その他

真継和子, 宮島朝子, 相良二郎: 介護保険による住宅改修に関する研究動向. 京都大学医学部保健学科紀要健康科学, 2008: 4: 63-66.

真継和子, 宮島朝子: 学生が捉えた倫理的課題と看護者に求める倫理観. 京都大学医学部保健学科紀要健康科学, 2008: 4: 339-44.

菅 佐和子: 「よい子」が問題になるとき—過剰適応と不適応. 児童心理, 2008: 886: 2-11.

野本慎一: 「胸痛」. ナーシングカレッジ, 2007: 12: 58-61.

講 演

菅 佐和子: こころを満たすコミュニケーションのコツ. なごや看護生涯学習公開講演会, 2008.11, 名古屋.

菅 佐和子: 思春期の「こころ」を理解するために—対応のポイントを考える. 岡山県青少年関係相談機関・NPO・ボランティア団体等研修会, 2008.11, 岡山.

学会発表

Nishimura K, Takasu NN, Nitta A, Nishida H, Kondo M, Wakamura T: Effect of daytime ylang-ylang inhalation under din light on autonomic nervous system. 9th International Congress on Physiological Anthropology, 2008.8, Netherlands.

Takasu N, Wakamura T, Oishi T, Yoneda M, Muramatsu K, Komatsu K, Kondo M, Tokura H: Subjective tiredness, wrist activity and sleep fragmentation score under the influence of daytime low UV light radiation in humans. Society for research on biological rhythms 11th biennial meeting, 2008.6, USA.

角谷 寛, 竹上未紗, 芦田(中山)幸代, 角 謙介, 中村敬哉, 高橋憲一, 堀田佐知子, 岡 靖哲, 南 一成, 若村智子, 福原俊一, 陳 和夫: 睡眠呼吸障害と睡眠時間. 日本睡眠学会第33回定期学術集会, 2008.6, 福島.

若村智子, 堀田佐知子, 大井元晴: 5年間継続するCPAP治療が血圧変動に及ぼす影響. 日本睡眠学会第33回定期学術集会, 2008.6, 福島.

陳 和夫, 小賀 徹, 高橋憲一, 中村敬哉, 角 謙介, 竹上未紗, 芦田(中山)幸代, 南 一成, 堀田佐知子, 岡 靖哲, 若村智子, 福原俊一: 企業検診における睡眠呼吸障害, メタボリック症候群と睡眠時間との関連. 日本睡眠学会第33回定期学術集会, 2008.6, 福島.

堀田佐知子, 若村智子, 杉田淑子, 村木久恵, 佐々木八千代, 近田敬子, 谷口充孝, 大井元晴: nCPAP使用前と1週間後における患者の実態調査. 日本睡眠学会第33回定期学術集会, 2008.6, 福島.

玉田明子, 前田智子, 池田由紀, 井上由記子, 菅 佐和子: 絵本の読み聞かせにおける母親語行動とその背景およびパーソナリティに関する研究. 日本ヒューマン・ケア心理学会第10回大会, 2008.9, 京都.

田中晴佳, 福岡敦子, 尾坂直昭, 菅 佐和子: アスペルガー障害が疑われる児童への対応についての一考察—学生ボランティアとして関わった事例を対象に. 日本ヒューマン・ケア心理学会第10回大会, 2008.9, 京都.

福岡敦子, 田中晴佳, 尾坂直昭, 菅 佐和子: 通級学級における学習障害(LD)をもつ児童の集団適応支援. 日本ヒューマン・ケア心理学会第10回大会, 2008.9, 京都.

佐野かおり, 宮島朝子, 立川麻紀, 若村智子, 堀田佐知子, 近田敬子: 一事例に見る定年退職前後の過ごし方の変化. 第34回日本看護研究学会学術集会, 2008.8, 兵庫.

立川麻紀, 宮島朝子, 佐野かおり, 若村智子, 堀田佐知子, 近田敬子: 事例研究—定年退職前後の睡眠・覚醒リズムの変化. 第34回日本看護研究学会学術集会, 2008.8, 兵庫.

住 京子, 野本慎一, 藤島真須美: Coronary angio CTにより冠動脈狭窄が認められたアミロイドーシスの一例. 第105回日本循環器学会近畿地方会, 2008.6, 大阪.

野本慎一, 三谷智子: 災害医療に関する医療従事者意識調査. 第13回日本集団災害医学会総会, 2008.2, 茨城県つくば市.

鈴木和代, 宮島朝子: 入学直後の看護学生の健康観を題材とした教育方法. 第28回日本看護科学学会学術集会, 2008.12, 福岡.

鈴木和代, 宮島朝子: 入学直後の看護学生の健康観—KJ法を用いたグループワーク演習. 日本看護学教育学会第18回学術集会, 2008.8, つくば.

臨床看護学講座

著 書

巽 典之監修, 赤澤千春, 他: 緊急対処ガイドブック. 京都: KINPODO, 2008.

原著論文

井村香積, 高田直子, 新井 龍, 作田裕美, 坂口桃子: 基礎看護学実習Ⅱで体験した看護学生の思い—患者とのコミュニケーションを通して—. 滋賀医科大学看護学ジャーナル, 2008; 6(1): 46-49.

高田直子, 作田裕美, 坂口桃子, 佐伯行一, 柏木厚典: 滋賀医科大学医学部附属病院生活習慣病外来の活動報告—運動療法指導における継続介入効果の検討—. 滋賀医科大学看護学ジャーナル, 2008; 6(1): 38-41.

今堀陽子, 作田裕美, 坂口桃子: 看護師の専門職的自律性とメンタリング. 日本看護研究学会雑誌, 2008; 31(2): 55-63.

佐藤美幸, 作田裕美, 坂口桃子: 女性の月経周期と体内水分量に関する研究—生体インピーダンス法を用いて—. 滋賀医科大学看護学ジャーナル, 2008; 6(1): 63-66.

坂口桃子, 作田裕美: 新卒看護師の早期離職と就労環境. 看護人材教育, 2008; 5(4): 125-130.

作田裕美, 佐藤美幸, 宮腰由紀子, 片岡 健, 坂口桃子: リンパ浮腫ケア「用手リンパドレナージ」の効果検証. 滋賀医科大学看護学ジャーナル, 2008; 6(1): 19-23.

作田裕美, 坂口桃子: 救急部門に働く看護師のコンピテンシーの特徴—Spencer & Spencerの一般的コンピテンシーとの比較から—. 日本臨床救急医学会雑誌, 2008; 11(1): 14-20.

作田裕美: ナースが行うリンパ浮腫ケア—圧迫下での運動療法—. 看護技術, 2008; 54(10): 37-40.

作田裕美: リンパ浮腫の基礎知識. がん看護, 2008; 13(7): 692-696.

作田裕美: リンパ浮腫患者の現況と看護の課題. 看護技術, 2008; 54(10): 10-12.

作田裕美: 看護学研究と臨床実践のユニフィケーションがもたらす価値—リンパ浮腫外来開設を一例として—. 滋賀医科大学看護学ジャーナル, 2008; 6(1): 4-8.

作田裕美: 質の高いリンパ浮腫ケアの提供に向けて. 看護技術, 2008; 54(10): 49-55.

Iwakura H, Ariyasu H, Kanamoto N, Hosoda K, Nakao K, Kangawa K, Akamizu T: Establishment of a novel neuroblastoma mouse model. *Int J Oncol.*, 2008; 33(6): 1195-9.

総説・その他

奥津文子, 赤澤千春, 星野明子: 女性の心と体の相談室「リンパ浮腫セルフケア相談」における活動の現状. 京都大学医学部保健学科紀要, 2008; 4: 7-49.

赤澤千春, 林 優子: IBL (Inquiry Based Learning) 演習法を活用した急性期成人看護学演習方法について. 京都大学医学部保健学科紀要, 2008; 4: 45-46.

作田裕美, 坂口桃子: 看護は専門職か. 看護人材教育, 2008; 5(5): 97-106.

講演

作田裕美：看護における研究と実践の統合—リンパ浮腫外来の試みから—。(株)アストラゼネカ、テレビシステムを使用した講演、2008.10、大阪。

作田裕美：エビデンスに基づくリンパ浮腫ケアのすすめ方。日総研セミナー、2008.6、名古屋・東京。

作田裕美：ユニフィケーションを活かした専門外来(リンパ浮腫外来)。香川県看護協会、2008.8、香川。

作田裕美：リンパ浮腫の病態理解に基づく複合的理学療法の実践。テルモ(株)リンパ浮腫治療講習会、2008.3、京都。

作田裕美：リンパ浮腫の予防に対する患者教育、指導に資する看護師研修。日本がん看護学会、2008.10、東京。

作田裕美：リンパ浮腫看護の展望—研究から実践へ。日本対がん協会 がん臨床研究推進事業 研究成果発表会、2008.10、愛媛。

作田裕美：看護過程を用いたがん患者の看護実践。北野病院、2008.10-12、大阪。

作田裕美：看護師が行うリンパ浮腫ケア。日本看護研究学会 東海地方会 第1回セミナー、2008.1、名古屋。

赤澤千春：技の探究 I—リンパ浮腫セルフケアマッサージ。近畿地区看護研究学会、2008.12、京都。

学会発表

西蘭貞子、赤澤千春、林 優子、山本昌恵、西本康世：IBL (Inquiry Based Learning) における効果的なグループ編成の在り方の検討。第18回日本看護学教育学会学術集会、2007.8、福岡。

赤澤千春、林 優子、西蘭貞子、山本昌恵：IBL (Inquiry Based Learning) と PBL (Problem Based Learning) を併用したアクティブ・ラーニングの評価方法について—ループリック (評価指標) の構築を目指して—。第18回日本看護学教育学会学術集会、2007.8、福岡。

奥 朋子、増島麻里子、作田裕美、櫻井通恵、富田英津子：リンパ浮腫ケアにおける現状の問題と課題。第22回日本がん看護学会学術集会、2008。

作田裕美、坂口桃子、今堀智恵子、岩田聖子：滋賀医科大学医学部附属病院「リンパ浮腫外来」開設3ヶ月における患者のニーズ。第22回日本がん看護学会学術集会、2008。

作田裕美、坂口桃子、佐藤美幸、宮腰由紀子、片岡

健：乳がん術後リンパ浮腫患者におけるリンパ浮腫治療開始前後の Self-efficacy 変化。第22回日本がん看護学会学術集会、2008。

家族看護学講座

著書

我部山キヨ子、大石時子編/著：助産師のためのフィジカルイグザミネーション。医学書院、2008。

我部山キヨ子、武谷雄二編/著：助産学講座1、基礎助産学 [1]。医学書院、2008。

我部山キヨ子、武谷雄二編：助産学講座2、基礎助産学 [2]。医学書院、2008。

我部山キヨ子、武谷雄二編：助産学講座3、基礎助産学 [3]。医学書院、2008。

我部山キヨ子、武谷雄二編：助産学講座4、基礎助産学 [4]。医学書院、2008。

系統看護学講座編：系統別看護師国家試験問題解答と解説2009年版。医学書院、2008。

菅沼信彦 (単著)：最新 生殖医療。名古屋：名古屋大学出版会、2008：pp 231。

谷口初美、他 (翻訳)：カルペニート看護診断マニュアル 第4版。Lynda Carpenito-Moyet 編集、新道幸恵監訳。東京：医学書院、2008。

鈴木真知子、マール H. ミッシェル、筒井真優美編集：看護理論20の理解と実践への応用。南江堂、2008：pp. 191-202。

原著論文

Watanabe H, Fukuoka H, Sugiyama T, Ogasawara K, Nagai, Yoshiike N: Dietary Folate intake during pregnancy and birth weight in Japan. *Eur J Nutr*, 2008; 47: 341-347.

及川郁子、井伊久美子、上野桂子、乙坂佳代、倉田慶子、島田珠美、鈴木真知子、政安静子、福島慎吾、野中 博、宮谷 恵、山本美智代：平成19年度厚生労働省障害者保健福祉推進事業 (障害者自立支援調査研究プロジェクト) 重症心身障害児・者への訪問看護ステーション業務基準を活用した発達支援モデル事業報告書。全国訪問看護事業協会、2008。

若原靖典、安藤寿夫、菅沼信彦：体外受精の採卵後の感染症に関する検討。日本受精着床学会雑誌、2008：25：171-175。

勝田仁美、内田雅代、鈴木真知子、奈良間美保、二宮啓子、宮内 環：特別支援学校において医療的ケアを

実施する看護師の機能と専門性の明確化に関する研究
研究報告書. 日本小児看護学会 すこやか親子21推進
事業委員会, 2008.

勝田仁美, 二宮啓子, 宮内 環, 奈良間美保, 鈴木真
知子, 内田雅代: 特別支援学校看護師のためのガイド
ライン. 日本小児看護学会 すこやか親子21推進事業
委員会, 2008.

菅沼信彦, 亀田知美, 宮家楨子, 安藤智子, 小川正
道: ターナー女性における「性と生殖」に関する意識
調査. 日本性科学会雑誌, 2008: 26: 9-15.

千葉陽子, 我部山キヨ子, 菅 佐和子, 金岡 緑: 親
の養育態度に対する子どもの認知と子どもの家族間の
情緒的安定や生き方志向との関連—大学生への調査を
通して—. 母性衛生, 2008: 49(2): 366-373.

総説・その他

宮崎つた子, 柳瀬 仁, 我部山キヨ子: 施設入所高齢
者の日常生活満足度とその関連要因 (第1報)—利用
者の基礎属性からの検討—. 健康科学, 2008: 5: 61-
66.

宮崎つた子, 柳瀬 仁, 我部山キヨ子: 施設入所高齢
者の日常生活満足度とその関連要因 (第2報)—施設
入所高齢者とケア提供者との認識のズレからの検討
—. 健康科学, 2008: 5: 67-70.

菅沼信彦, 亀田知美, 宮家楨子: 過排卵刺激とならな
いクロミフェン投与法の工夫. 臨床婦人科産科,
2008: 62: 272-275.

浅井康文, 千葉陽子, 児島盛之, 鈴木三和, 荒井尚
之, 山本保博: シリア・アラブ共和国への救急医療体
制支援. 日本集団災害医学会誌, 2008: 13(2): 198-
203.

渡邊浩子, 高橋由紀, 立岡弓子: 諸外国の研究報告の
なかのフリードマン曲線. 助産雑誌, 2008: 62(2):
552-559.

渡邊浩子, 山口琴美, 千葉陽子, 柳吉桂子, 谷口初
美, 我部山キヨ子: 本学における短期大学専攻科から
大学選択課程への移行による助産診断・技術項目の到
達度の評価: 臨床指導者からの評価. 健康科学,
2008: 5: 55-59.

鈴木真知子: NPPV (非侵襲的陽圧換気療法) のすべ
て JIN スペシャル 石川悠加編 書評. 訪問看護と
介護, 医学書院, 2008: 13(11): pp. 961.

講 演

菅沼信彦: 産婦人科の立場から. シンポジウム「ター

ナー症候群 小児期から成人への Transition」, 第9回
ターナー症候群西日本ネットワーク, 2008.2, 大阪市.

菅沼信彦: 生殖補助医療の実際と現況. 国立病院機構
名古屋医療センター平成19年度臨床研究センターセミ
ナー「がん患者に対する生殖補助医療」. 2008.3, 名
古屋市.

菅沼信彦: 生殖補助医療の最近の話題. 平成20年度京
都母性衛生学会 特別講演, 2008.10, 京都市.

菅沼信彦: 男と女の間には…インターセックス～30年
間の医学的自分史～. 第28回日本性科学会 会長講
演, 2008.10, 京都市.

菅沼信彦: インターセックス～外科的治療を通じて
「性」を考える. TTS ファミリー10周年記念講演会
特別講演, 2008.12, 名古屋市.

千葉陽子: 後輩へのメッセージ—国際活動の体験を通
して—. 京都府看護学校連絡協議会研修会, 2008.8,
京都市.

鈴木真知子: 医療的ケア支援のあり方について考える
～地域支援活動, 特別支援学校での調査結果から.
NPO 法人医療的ケアネット, 2008, 滋賀市.

鈴木真知子: 重症児と家族が安心して在宅療養に移行
していくには～体制づくりと支援者の役割～. 平成20
年度「たんぽぽネットワーク (在宅療養支援の推進)」
全体会, 京都府山城北保健所, 2008, 京都市.

鈴木真知子: 小児看護の基本的理解. 小児訪問看護研
修会, 全国訪問看護事業協会, 2008, 大阪市.

我部山キヨ子: 健やかに生き安らかに逝くための人生
の過ごし方. 在宅ホスピスケア普及フォーラム, 京都
府看護協会, 2008.2, 京都市.

我部山キヨ子: 看護および看護教育の動向. 教員養成
講習会, 京都府看護協会, 2008.10, 京都市.

我部山キヨ子: 助産診断. 富山県看護協会, 2008.11,
富山市.

我部山キヨ子: お産に求められるケアを考える. 日本
看護協会, 2008.11.

我部山キヨ子: 助産診断・妊婦の健康診査, 標準的保
健指導, 産科医療機関等の助産師確保促進事業. 京都
府看護協会, 2008.12, 京都市.

学会発表

Chiba Y, Oguttu M: Gaps between maternity service and
record-keeping in the two district hospitals in Western
Kenya. 28th Triennial Congress of International

Confederation of Midwives (ICM), 2008.6, Glasgow, UK.

Taniguchi H: Expatriate Japanese women's growth and transformation through childbirth in Hawaii. The 8th Thinking Qualitatively Workshop, 2008.6, Canada.

伊藤久美子, 月僧厚子, 我部山キヨ子: 上の子が出産に立ち会った母親への産後6ヶ月の意識調査(第1報)―上の子が出産に立ち会った母親の出産体験想起―. 第22回日本助産学会学術集會集録, 2008: 21(3): 158, 神戸市.

亀田知美, 山内 文, 宮家槇子, 清川加奈子, 川口朝兒, 藤田敬之助, 小川正道, 菅沼信彦: ターナー女性における「性と生殖」に関する意識調査. 第26回日本受精着床学会, 2008.8, 福岡市.

宮家槇子, 山内 文, 亀田知美, 清川加奈子, 濱口元洋, 菅沼信彦: 血液腫瘍性疾患患者における生殖補助医療に対する認識ならびに意識の解析. 第26回日本受精着床学会, 2008.8, 福岡市.

月僧厚子, 伊藤久美子, 我部山キヨ子: 上の子が出産に立ち会った母親への産後6ヶ月の意識調査(第2報)―上の子が出産に立ち会った母親の育児への思いと子どもの行動傾向―. 第22回日本助産学会学術集會集録, 2008: 21(3): 159, 神戸市.

今野佳絵, 荻原弘光, 松本桃代, 渡邊浩子, 福岡秀興, 小笠原加代子, 永井 泰: 妊婦の体重増加量と新生児の体格・栄養素等摂取状況との関連. 第49回日本母性衛生学会, 2008.10, 浦安市.

山口琴美, 我部山キヨ子: 不妊治療に関わる医療従事者が考える妊産褥婦とそのパートナーのニーズとケアの特性. 第28回日本看護科学学会講演集, 2008: 216, 福岡市.

山内 文, 宮家槇子, 亀田知美, 清川加奈子, 菅沼信彦: 就業施設による助産師偏在化の原因究明. 第60回日本産科婦人科学会, 2008.4, 横浜市.

森 千春, 和泉美枝, 山口琴美, 千葉陽子, 渡邊浩子, 柳吉桂子, 我部山キヨ子: 不妊治療後妊産褥婦とパートナーに対する周産期ケアに関する研究(第1報)―看護職者の認識―. 第49回日本母性衛生学会学術集會, 2008.11, 浦安市.

森 千春, 和泉美枝, 山口琴美, 千葉陽子, 渡邊浩子, 柳吉桂子, 我部山キヨ子: 不妊治療後妊産褥婦とパートナーに対する周産期ケアに関する研究(第2報)―看護職者の教育とケアの方向性―. 第49回日本母性衛生学会学術集會, 2008.11, 浦安市.

清川加奈子, 山内 文, 宮家槇子, 亀田知美, 前田尚子, 堀部敬三, 菅沼信彦: 小児血液腫瘍性疾患患者ならびにその家族における生殖補助医療に対する認識調査. 第24回日本小児がん学会, 2008.11, 千葉市.

清川加奈子, 宮家槇子, 山内 文, 亀田知美, 菅沼信彦: 血液腫瘍性疾患患者に対する生殖補助医療サポートシステムの構築. 第60回日本産科婦人科学会, 2008.4, 横浜市.

千葉陽子, 我部山キヨ子: 助産学実習における教育機関別の学生の臨床技術経験・見学回数と到達度自己評価との関連性. 第22回日本助産学会学術集會, 2008.3, 神戸市.

中島良子, 井田真理恵, 菅沼信彦: 今, 男性助産師問題を考える. 平成20年度京都母性衛生学会, 2008.10, 京都市.

鈴木真知子: 長期入院児の在宅移行支援が困難な事例へのコンサルティングの活用. 第18回日本小児看護学会, 2008, 名古屋市.

和泉美枝, 森 千春, 山口琴美, 千葉陽子, 渡邊浩子, 柳吉桂子, 我部山キヨ子: 超音波検査経験年数による助産師の認識と望む教育体制. 第17回京都母性衛生学会学術講演会. 2008.10, 京都市.

和泉美枝, 森 千春, 山口琴美, 千葉陽子, 渡邊浩子, 柳吉桂子, 我部山キヨ子: 超音波診断に関する実態と助産師の認識調査. 第49回日本母性衛生学会学術集會, 2008.11, 浦安市.

地域看護学講座

原著論文

Kubota M, Koshinaka K, Kawata Y, Koike T, Oshida Y: Effects of continuous low-carbohydrate diet after long-term exercise on GLUT-4 protein content in rat skeletal muscle. *Hormone and Metabolic Research*, 2008; 40(1): 24-28.

Li P, Koike T, Qin B, Kubota M, Kawata Y, Jia YJ, Oshida Y: A High-fructose Diet Impairs Akt and PKCzeta Phosphorylation and GLUT4 Translocation in Rat Skeletal Muscle. *Hormone and Metabolic Research*, 2008; 40(8): 528-532.

奥津文子, 赤澤千春, 星野明子: 女性のこころと身体との相談室『リンパ浮腫セルフケア相談』における活動の現状. *健康科学*, 2008: 4: 45-46.

久保田正和, 木下彩栄: IT利用が在宅介護者の介護ストレスに与える影響. *癌と化学療法*, 2008: 35(1): 46-47.

桂 敏樹, 星野明子, 臼井香苗, 山本昌恵, 稲垣紀子, 音無大武, 小野奈津子, 公文しおり, 田中祐未, 成川由希子: 商店街を拠点としたポピュレーション・ストラテジーによる健康増進活動—介護予防, メタボリックシンドローム予防等を目的とした商店連盟や住民自治会との連携による出前“すこやか健康講座”. 健康科学, 3008 : 4 : 55-58.

植村健吾, 安藤功一, 久保田正和, 木下彩栄: γ セクレターゼとシナプス機能. *Cognition and Dementia*, 2008 ; 7(1): 46-54.

星野明子, 桂 敏樹, 山本昌恵, 辻本晶子: 商店街を拠点とした健康で安心安全な街づくりの実践—「健康をサポートする商店街」を目指した古川町商店街振興組合との協働. 健康科学, 2008 : 4 : 59-61.

保利美也子, 久保田正和, 木下彩栄: スカイプとWeb カメラを使用した在宅認知症患者とその介護者への支援. 癌と化学療法, 2008 : 35(1) : 43-45.

講演

桂 敏樹, 星野明子: 東近江市すこやか健康講座『健康やかに老いる』. 東近江市宮荘, 2008.6.

桂 敏樹: 京都市伏見区醍醐地区シニアいきいきライフ健康講座『転倒・骨折予防』. 京都市伏見区社会福祉協議会, 2008.9.

木下彩栄, 鈴木利治: Regulated Intramembrane Proteolysis 日本神経科学大会 ワークショップ主催. 2008.7.

木下彩栄: 京田辺保健所主催 大住が丘いきいき会健康科学講演会 特別講演. 2008.7.

学会発表

Akiko Hoshino, Toshiki Katsura: Creating A Healthy, Secure, Safe Town Based Around A Shopping Center—Collaboration Of “Sukoyaka Salon” In A Vacant Store And Other Organizations. 11th Asian Congress of Agricultural Medicine and Rural Health, 2008.

Natsuko Ono, Akiko Hoshino, Toshiki Katsura, Kanae Usui: How young girls develop the habit of smoking. 7th Annual Conference of the International Society for the Prevention of Tobacco Induced Diseases, 2008.

Uemura K, Ando K, Aoyagi N, Shimohama S, Takahashi R, Kinoshita A: N-cadherin-based adhesion enhances Abeta release and decreases Abeta42/40 ratio. 11th International Congress of Alzheimer's Disease, 2008.7, USA.

Yuki Kawata, Teruhiko Koike, Masakazu Kubota, Yanjyun Jia, Ping Li, Yoshiaru Oshida: *In vivo* regulation of glucose uptake in denervated rat skeletal muscle. 7th World Congress on Aging and Physical Activity, 2008.7, Tsukuba.

安藤功一, 久保田正和, 青柳信寿, 猪原匡史, 植村健吾, 川又 純, 高橋良輔, 木下彩栄: アルツハイマー病における N-カドヘリン関連蛋白質の解析. 第31回日本神経科学大会, 2008.7, 東京.

安藤功一, 植村健吾, 木下彩栄: アルツハイマー病におけるシナプス障害の検討. 第6回神経科学研究会, 2008.9, 東京.

安藤功一, 浅田めぐみ, 植村健吾, 秋山治彦, 下浜俊, 高橋良輔, 木下彩栄: アルツハイマー病における N-カドヘリン関連タンパク質の解析. 日本分子生物学会総会 BMB2008, 2008.12, 神戸.

奥津文子, 星野明子, 臼井香苗, 桂 敏樹: リンパ浮腫のセルフケア実施状況に影響する要因の検討. 第5回 MLAJ 学術大会, 2008, 横浜市.

久保田正和, 木下彩栄: IT 利用が在宅介護者の介護ストレスに与える影響 (第1報). 第19回日本在宅医療学会学術集会, 2008.7, 千葉.

久保田正和, 木下彩栄: 在宅介護者における介護プログラムと介護ストレスの関係. 第19回日本老年医学会近畿地方会, 2008.11, 京都.

桂 敏樹, 星野明子, 臼井香苗, 小野奈津子: 都市部人口空洞化地域における高齢者健康支援アクションプランの評価 (2). 第67回日本公衆衛生学会, 2008, 福岡市.

江口恭子, 木下彩栄: 肺炎を発症して入院した高齢者に関する調査—認知症の有無に着目して—. 第9回認知症ケア学会, 2008.9, 高松.

小野奈津子, 星野明子, 桂 敏樹: 若年女性の喫煙が習慣化するプロセスと非喫煙者が継続するプロセス. 第67回日本公衆衛生学会, 2008, 福岡市.

植村健吾, 青柳信寿, 安藤功一, 浅田めぐみ, 下浜俊, 高橋良輔, 木下彩栄: N-カドヘリンのプレセニリン・ γ セクレターゼ機能に与える影響. 第49回日本神経学会総会, 2008.5, 横浜.

星野明子, 奥津文子, 臼井香苗, 桂 敏樹: リンパ浮腫患者のためのグループ化支援. 第5回 MLAJ 学術大会, 2008, 横浜市.

星野明子, 桂 敏樹, 臼井香苗, 小野奈津子: 都市部人口空洞化地域における高齢者健康支援アクションプ

ランの評価 (1). 第67回日本公衆衛生学会, 2008, 福岡市.

青柳信寿, 植村健吾, 木下彩栄, 下浜 俊, 高橋良輔: PI3 キナーゼ系はプレセニン1のユビキチン化を調節し局在を変化させる. 第49回日本神経学会総会, 2008.5, 横浜.

浅田めぐみ, 植村健吾, 前迫正人, 久保田正和, 下浜俊, 高橋良輔, 木下彩栄: APP ダイマー化に対するN-カドヘリンの影響. 第31回日本分子生物学会年会, 2008.12, 神戸.

前迫真人, 植村健吾, 浅田めぐみ, 安藤功一, 中村昌平, 池内 健, 久保田正和, 木下彩栄: アルツハイマー病におけるインスリン受容体関連蛋白質の解析. 第31回日本分子生物学会年会, 2008.12, 神戸.

田中裕未, 星野明子, 桂 敏樹: 大学生の予防的保健行動の実行に影響する要因. 第67回日本公衆衛生学会, 2008, 福岡市.

日吉和子, カール・ベッカー, 木下彩栄: 高齢者介護における精神的問題. 日本衛生学会, 2008.3, 熊本.

日吉和子, カール・ベッカー, 木下彩栄: 在宅介護における介護者のバーンアウトと要介護者老人のBPSDとの関連. 第19回日本老年医学会近畿地方会, 2008.11, 京都.

保利美也子, 久保田正和, 木下彩栄: スカイプとWebカメラを使用した在宅認知症患者とその介護者への支援. 第19回日本在宅医療学会学術集会, 2008.7, 千葉.

保利美也子, 久保田正和, 木原武士, 高橋良輔, 木下彩栄: スカイプを用いた在宅認知症患者とその家族への支援システムの有効性. 第19回日本老年医学会近畿地方会, 2008.11, 京都.

本田 誠, 遠井紀江, 南 一成, 和田圭樹, 植村健吾, 木下彩栄, 高橋良輔, 饗庭一博, 中辻憲夫: ヒトES細胞由来神経細胞を用いたアルツハイマー病モデル細胞. 第31回日本分子生物学会年会, 2008.12, 神戸.

検査技術科学コース

著 書

齊藤邦明: 健康食品ポケットマニュアル. 健康食品管理士認定協会, 2008.

足立壮一: 骨髄異形成症候群 (MDS) について BLOOD MASTER—血液疾患症例に学ぶ—. イン

ターメディカ, 2008.

山中康成, 足立壮一: 「病児保育室の活動状況」京都大学女性研究者支援センター編. 京都大学男女共同参画への挑戦, 明石書店, 2008.

松浦ひろみ, 足立壮一: 「小児科血液心理外来」. 伊藤良子編 [現代のエスプリ] 別冊・臨床心理面接研究セミナー, 至文堂, 2006.

石田哲士, 中泉明彦: 粘液性嚢胞腫瘍 (MCN) 超音波/超音波内視鏡, 大友 邦, 木村 理編集, 見て診て学ぶ腓腫瘍の画像診断. 大阪市: 永井書店, 2009: 105-112.

原著論文

Kimura A, Sakurai T, Tanaka Y, Hozumi I, Takahashi K, Takemura M, Saito K, Seishima M, Inuzuka T: Proteomic analysis of autoantibodies in neuropsychiatric systemic lupus erythematosus patient with white matter hyperintensities on brain MRI. *Lupus*, 2008; 17(1): 16-20.

Shinohe R, Sato M, Takemura M, Shimizu K, Koishi H, Tanaka R, Saito K, Seishima M: Cytokine profiles in mice with arthritis induced by anti-type II collagen monoclonal antibody plus lipopolysaccharide. *JPN J Clin Chem*, 2008; 37(1): 53-62.

Taguchi A, Hara A, Saito K, Hoshi M, Niwa M, Seishima M, Mori H: Localization and spatiotemporal expression of IDO following transient forebrain ischemia in gerbils. *Brain Res*, 2008; 1217: 78-85.

Chousa M, Ito H, Saito K, Takahashi K, Takemura M, Takahashi T, Tomita E, Seishima M: The measurement of serum ceruloplasmin is useful for diagnostic differentiation of immune thrombocytopenic purpura. *Clin Chim Acta*, 2008; 389: 132-138.

Ito H, Ando K, Ishikawa T, Nakayama T, Taniguchi M, Saito K, Imawari M, Moriwaki H, Yokochi T, Kakumu S, Seishima M: Role of Valpha14 + NKT cells in the development of Hepatitis B virus-specific CTL: activation of Valpha14 + NKT cells promotes the breakage of CTL tolerance. *Int Immunol*, 2008; 20: 869-879.

Iwamoto N, Ito H, Ando K, Ishikawa T, Hara A, Taguchi A, Saito K, Takemura M, Imawari M, Moriwaki H, Seishima M: Upregulation of indoleamine 2,3-dioxygenase in hepatocyte during acute hepatitis caused by hepatitis B virus-specific cytotoxic T lymphocytes *in vivo*. *Liver Int*, 2008; 29: 277-283.

Hoshi M, Ito H, Fujigaki H, Takemura M, Takahashi T,

- Tomita E, Ohyama M, Tanaka R, Saito K, Seishima M: Indoleamine 2,3-dioxygenase is highly expressed in human adult T-cell leukemia/lymphoma and chemotherapy changes tryptophan catabolism in serum and reduced activity. *Leuk Res*, in press.
- Sudo K, Yamada Y, Saito K, Shimizu S, Ohashi H, Kato T, Moriwaki H, Ito H, Seishima M: TNF- α and IL-6 signals from the bone marrow derived cells are necessary for normal murine liver regeneration. *Biochim Biophys Acta*, 2008; 1782: 671-679.
- Ito H, Ando K, Ishikawa T, Saito K, Takemura M, Imawari M, Moriwaki H, Seishima M: Role of TNF- α produced by non-antigen-specific cells in a fulminant hepatitis mouse model. *J Immunol*, in press.
- Ohtaki H, Ito H, Ando K, Ishikawa T, Saito K, Imawari M, Yokochi T, Moriwaki H, Seishima M: V α 14 NKT cells activated by alpha-galactosylceramide augment lipopolysaccharide-induced nitric oxide production in mouse intrahepatic lymphocytes. *Biochem Biophys Res Commun*, in press.
- 佐藤正夫, 竹村正男, 四戸隆基, 齊藤邦明, 清島満: 抗 CCP 抗体は生物学的製剤の治療効果判定に有用であるか? 中部リウマチ, 2008: 39(1): 24-25.
- 田中 領, 佐藤正夫, 竹村正男, 四戸隆基, 齊藤邦明, 清島 満, 清水克時: 関節リウマチにおける Infliximab 治療効果と血清キヌレニン濃度の変化. 中部リウマチ, 2008: 39(1): 26-27.
- 佐藤正夫, 四戸隆基, 竹村正男, 清島 満, 齊藤邦明: 関節リウマチに対するサラゾスルファピリジン低用量投与の検討. 臨床リウマチ, 2008: 20(3): 188-193.
- 太田浩敏, 古田伸行, 服部高幸, 丸本雅夫, 前田悟司, 紀ノ定保臣, 竹村正男, 伊藤弘康, 齋藤邦明, 清島 満: 完全電子化病院における検査付加価値情報提供の評価について—アンケート調査から—. 日本臨床検査自動化学会誌, 2008: 33(3): 295-300.
- Yamamoto H, Li TC, Koshimoto C, Ito K, Kita M, Miyashita N, Arikawa J, Yagami K, Asano M, Tezuka H, Suzuki N, Kurosawa T, Shibahara T, Furuya M, Mohri S, Sato H, Ohsawa K, Ibuki K, Takeda N: Serological evidence for hepatitis e virus infection in laboratory monkeys and pigs in animal facilities in Japan. *Exp Anim*, 2008; 57(4): 367-76.
- Fukazawa Y, Miyake A, Ibuki K, Inaba K, Saito N, Motohara M, Horiuchi R, Himeno A, Matsuda K, Matsuyama M, Takahashi H, Hayami M, Igarashi T, Miura T: Small intestine CD4 + T cells are profoundly depleted during acute simian-human immunodeficiency virus infection, regardless of viral pathogenicity. *J Virol*, 2008; 82(12), 6039-44.
- Ido E, Ishimatsu M, Tada T, Ibuki K: Novel SHIVs that possess HIV-1-derived pol genes can infect rhesus macaques. 26th Annual Symposium on Nonhuman Primate Model for AIDS, San Juan, Puerto Rico, 2008; 9-12.
- Awaya T, Kato T, Hiramatsu H, Umeda K, Watanabe K, Shibata M, Yamanaka Y, Nakahata T, Adachi S: Successful cord blood transplantation using reduced-intensity conditioning regimen for advanced childhood-onset cerebral adrenoleukodystrophy. *Pediatr Transplant*, in press.
- Kanda J, Ichinohe T, Shimazaki C, Hamaguchi M, Watanabe A, Ishida H, Yoshihara T, Morimoto A, Uoshima N, Adachi S, Inukai T, Sawada A, Oka K, Itoh M, Hino M, Maruya E, Saji H, Uchiyama T, Kodera Y: Long-term survival after HLA-haploidentical SCT from noninherited maternal antigen-mismatched family donors: impact of chronic GVHD. *Bone Marrow Transplant*, in press.
- Niwa A, Umeda K, Awaya T, Yui Y, Matsubara H, Hiramatsu H, Watanabe K, Adachi S, Itoh T, Uemoto S, Nakahata T: Successful autologous peripheral blood stem cell transplantation with a double-conditioning regimen for recurrent hepatoblastoma after liver transplantation. *Pediatr Transplant*, in press.
- Hiraumi Y, Iwai-Kanai E, Baba S, Yui Y, Kamitsuji Y, Mizushima Y, Matsubara H, Watanabe M, Watanabe K, Toyokuni S, Matsubara H, Nakahata T, Adachi S: Granulocyte colony-stimulating factor protects cardiac mitochondria in the early phase of cardiac injury. *Am J Physiol Heart Circ Physiol*, 2009; 296: H823-H832.
- Matsubara H, Watanabe M, Imai T, Yui Y, Mizushima Y, Hiraumi Y, Kamitsuji Y, Watanabe K, Nishijo K, Toguchida J, Nakahata T, Adachi S: Involvement of ERK activation in human osteosarcoma cell resistance to the HDAC inhibitor FK228. *J Pharmacol Exp Ther*, 2009; 328: 839-848.
- Koto K, Horie N, Kimura S, Murata H, Sakabe T, Matsui T, Watanabe M, Adachi S, Maekawa T, Fushiki S, Kubo

- T: Clinically relevant dose of zoledronic acid inhibits spontaneous lung metastasis in a murine osteosarcoma model. *Cancer Lett*, 2009; 274: 271-278.
- Toki T, Kanezaki R, Adachi S, Fujino H, Xu G, Sato T, Suzuki K, Tauchi H, Endo M, Ito E: The key role of stemcell factor/KIT signaling in the proliferation of blast cells from Down syndrome-related leukemia. *Leukemia*, 2009; 23: 95-103.
- Nakatani T, Imamura T, Ishida H, Wakaizumi K, Yamamoto T, Otabe O, Ishigami T, Adachi S, Morimoto A: Frequency and clinical features of the JAK2 V617F mutation in pediatric patients with sporadic essential thrombocythemia. *Ped Blood Cancer*, 2008; 51: 802-805.
- Watanabe M, Adachi S, Matsubara H, Imai T, Yui Y, Mizushima Y, Hiraumi Y, Watanabe K, Kamitsuji Y, Toyokuni S, Hosoi H, Sugimoto T, Toguchida J, Nakahata T: Induction of autophagy in malignant rhabdoid tumor cells by the histone deacetylase inhibitor FK228 through AIF translocation. *Int J Cancer*, 2009; 124: 55-67.
- Kamitsuji Y, Kuroda J, Kimura S, Toyokuni S, Watanabe K, Ashihara E, Tanaka H, Yui Y, Watanabe M, Matsubara H, Mizushima Y, Hiraumi Y, Kawata E, Yoshikawa T, Maekawa T, Nakahata T, Adachi S: The Bcr-Abl kinase inhibitor INNO-406 induces autophagy and different modes of cell death execution in Bcr-Abl-positive leukemias. *Cell Death Differ*, 2008; 15: 1712-1722.
- Yabe M, Sako M, Yabe H, Osugi Y, Kurosawa H, Nara T, Tokuyama M, Adachi S, Kobayashi C, Yanagimachi M, Ohtsuka Y, Nakazawa Y, Ogawa C, Manabe A, Kojima S, Nakahata T: A conditioning regimen of busulfan, fludarabine, and melphalan for allogeneic stem cell transplantation in children with juvenile myelomonocytic leukemia. *Pediatr Transplant*, 2008; 12: 862-867.
- Sato T, Toki T, Kanezaki R, Xu G, Terui K, Kanegane H, Miura M, Adachi S, Migita M, Morinaga S, Nakano T, Endo M, Kojima S, Kiyoi H, Mano H and Ito E: Functional analysis of JAK3 mutations in transient myeloproliferative disorder and acute megakaryoblastic leukemia accompanying Down syndrome. *Br J Haematol*, 2008; 141: 681-688.
- Saito M, Nishikomori R, Kambe N, Fujisawa A, Tanizaki H, Takeichi K, Imagawa T, Iehara T, Takada H, Matsubayashi T, Tanaka H, Kawashima H, Kawakami K, Kagami S, Okafuji I, Yoshioka T, Adachi S, Heike T, Miyachi Y, Nakahata T: Disease-associated CIAS1 mutations induce monocyte death, revealing low-level mosaicism in mutation-negative cryopyrin-associated periodic syndrome patients. *Blood*, 2008; 111: 2132-2141.
- Hiramatsu H, Morishima T, Nakanishi H, Mizushima Y, Miyazaki M, Matsubara H, Kobayashi M, Nakahata T, Adachi S: Successful treatment of a patient with Klinefelter's syndrome complicated with mediastinal germ cell tumor and AML (M7). *Bone Marrow Transplant*, 2008; 41: 907-908.
- Adachi S, Manabe A, Imaizumi M, Taga T, Tawa A, Tsurusawa M, Kikuchi A, Masunaga A, Tsuchida M, Nakahata T: Acute myeloid leukemia with multilineage dysplasia in children. *Int J Hematol*, 2007; 86: 358-363.
- Niwa A, Matsubara H, Adachi S, Fujino H, Higashi Y, Umeda K, Shiota M, Hiramatsu H, Kobayashi M, Watanabe K, Yorifuji T, Nakahata T: Diabetes mellitus after stem cell transplantation in a patient with acute lymphoblastic leukemia: Possible association with tacrolimus. *Pediatrics International*, 2007; 49: 530-532.
- Yui Y, Umeda K, Kaku H, Arai M, Hiramatsu H, Watanabe K, Saji H, Adachi S, Nakahata T: A pediatric case of transfusion-related acute lung injury following bone marrow infusion. *Ped Transplant*, 2007; 11: 543-546.
- Fujisawa A, Kambe N, Saito M, Nishikomori R, Tanizaki H, Kanazawa N, Adachi S, Heike T, Sagara J, Suda T, Nakahata T, Miyachi Y: Disease-associated mutations in CIAS1 induce cathepsin B-dependent rapid cell death of human THP-1 monocytic cells. *Blood*, 2007; 109: 2903-2911.
- Myoumoto A, Nakatani K, Koshimizu T, Matsubara H, Adachi S, Tsujimoto G: Glucocorticoid-induced granzyme A expression can be used as a marker of glucocorticoid sensitivity for acute lymphoblastic leukemia. *J Hum Genet*, 2007; 52: 328-333.
- Yabe H, Inoue H, Matsumoto M, Hamanoue S, Koike T, Ishiguro H, Koike H, Suzuki K, Shunichi K, Kojima S, Tsuchida M, Mori T, Adachi S, Tsuji K, Koike K, Morimoto A, Sako M, Yabe M: Allogeneic haematopoietic cell transplantation from alternative donors with a conditioning regimen of low-dose irradiation, fludarabine and cyclophosphamide in Fanconi anaemia. *Br J Haematol*, 2006; 134: 208-212.
- Mizumoto H, Hata D, Yamamoto K, Shirakawa R, Kumakura A, Shiota M, Yokoyama A, Matsubara H,

- Kobayashi M, Nishikomori R, Adachi S, Nakahata T, Kita T, Horiuchi H, Yasukawa M, Ishii E: Familial hemophagocytic lymphohistiocytosis with the MUNC13-4 mutation: a case report. *Eur J Pediatr*, 2006; 165: 384-388.
- Matsubara H, Kobayashi M, Tokumasu M, Nakanishi H, Miyazaki M, Mizushima Y, Hiramatsu H, Adachi S, Nakayama T, Onishi, E, Nakahata T: Salmonella enteritidis septic arthritis after allogeneic peripheral blood stem cell transplantation. *Leuk Lymphoma*, 2006; 47: 1435-1437.
- Yamamoto A, Miki Y, Adachi S, Kanagaki M, Fushimi Y, Okada T, Kobayashi M, Hiramatsu H, Umeda K, Nakahata T, Van Buchem MA, Togashi K: Whole brain magnetization transfer histogram analysis of pediatric acute lymphoblastic leukemia patients receiving intrathecal methotrexate therapy. *Eur J Radiol*, 2006; 57: 423-427.
- 瓜生久美子, 松原 央, 加藤 格, 徳舛麻友, 梅田雄嗣, 今井 剛, 渡邊健一郎, 足立壮一, 中畑龍俊: 小児T細胞型急性リンパ性白血病に合併した groove 膝炎の1例. *日本小児血液学会雑誌*, 印刷中.
- 深尾大輔, 加藤 格, 梅田雄嗣, 徳舛麻友, 瓜生久美子, 馬場志郎, 松原 央, 渡邊健一郎, 土井 拓, 足立壮一, 中畑龍俊, 水嶋康浩, 片岡昭浩, 若園吉裕: 感染性心内膜炎合併後に安全に非血縁臍帯血移植を施行し得た乳児白血病の1例. *日本小児血液学会雑誌*, 印刷中.
- 大封智雄, 加藤 格, 松原 央, 安部大輔, 瓜生久美子, 徳舛麻友, 梅田雄嗣, 渡邊健一郎, 井澤和司, 浅井康一, 中畑龍俊, 足立壮一: 骨髄移植を施行し無病生存を得ているダウン症候群合併急性骨髄性白血病再発症例. *臨床血液*, 印刷中.
- 足立壮一: 血液腫瘍疾患における多様な細胞死機序. *臨床血液*, 印刷中.
- 山中康成, 野間久史, 足立壮一: 京都大学女性研究者支援センター病児保育室の活動状況と問題点. *小児保健研究*, 2008; 67: 890-895.
- 加藤 格, 梅田雄嗣, 松原 央, 平松英文, 渡邊健一郎, 足立壮一, 中畑龍俊: 小児同種造血幹細胞移植症例に伴う腎障害の検討. *臨床血液*, 2008; 49: 1530-1535.
- 松永裕美, 松村由美, 宮地良樹, 三富陽子, 真鍋俊明, 河野文彦, 安部大輔, 梅田雄嗣, 足立壮一, 中畑龍俊: 骨髄移植後に生じたサイトメガロウイルス (CMV) 性肛門周囲潰瘍. *臨床皮膚科*, 2008; 62(11): 847-849.
- 岩田あや, 梅田雄嗣, 丹羽 明, 由井理洋, 平松英文, 渡邊健一郎, 足立壮一, 中畑龍俊: ポリコナゾールを含めた抗真菌多剤併用療法が著効した骨髄移植後の重症アスペルギルス感染症の2症例. *日小血会誌*, 2008; 22: 28-33.
- 松原 央, 小林道弘, 由井理洋, 加藤 格, 丹羽明, 新井真人, 宮崎真紀, 水嶋康浩, 梅田雄嗣, 平松英文, 渡邊健一郎, 足立壮一, 中畑龍俊: 小児造血幹細胞移植におけるサイクロスポリン3時間点滴静注法による C3 モニタリング. *臨床血液*, 2007; 48: 605-610.
- 三沢あき子, 足立壮一, 梅田雄嗣, 平松英文, 渡邊健一郎, 松本繁己, 柳原一広, 細井 創, 杉本 徹, 中畑龍俊: 我が国における小児がん外来化学療法の診療. *日本小児科学会誌*, 2007; 111: 550-555.
- 足立壮一: 小児がん・血液疾患における細胞死. *日本小児科学会誌*, 2006; 110: 733-744.
- Tonoyama T, Anzai D, Ikeda A, Kakuda S, Kinoshita M, Kawasaki T, Oka S: Essential role of beta 1,4-galactosyltransferase 2 during medaka (*Oryzias latipes*) gastrulation. *Mech Dev*, 2009, in press.
- Yoshihara T, Sugihara K, Kizuka Y, Oka S, Asano M: Learning/memory impairment and reduced expression of the HNK-1 carbohydrate in beta 4-galactosyltransferase-II-deficient mice. *J Biol Chem*, 2009; 284(18): 12550-12561.
- Kizuka Y, Tonoyama Y, Oka S: Distinct transport and intracellular activities of two GlcAT-P isoforms. *J Biol Chem*, 2009; 284(14): 9247-9256.
- Kawasaki N, Lin CW, Inoue R, Khoo KH, Kawasaki N, Ma BY, Oka S, Ishiguro M, Sawada T, Ishida H, Hashimoto T, Kawawasaki T: Highly Fucosylated N-Glycan Ligands for Mannan-binding Protein Expressed Specifically on CD26 (DPPVI) Isolated from a Human Colorectal Carcinoma Cell Line, SW1116. *Glycobiology*, 2009; 19(4): 437-450.
- Yagi H, Yamada K, Ohno E, Utsumi M, Yamaguchi Y, Kurimoto E, Takahashi N, Oka S, Kawasaki T, Kato K: Development and application of high performance liquid chromatography map of glucuronyl N-glycans. *Open Glycoscience*, 2008; 1: 8-18.
- Kizuka Y, Kobayashi K, Kakuda S, Nakajima Y, Itoh S,

- Kawasaki N, Oka S: Laminin-1 is a novel carrier glycoprotein for the non-sulfated HNK-1 epitope in mouse kidney. *Glycobiology*, 2008 ; 18(4): 331-338.
- Uehara H, Tatsumi K, Masuda E, Kato M, Kizu T, Ishida T, Takakura R, Takano Y, Nakaizumi A, Ishikawa O, Takenaka A: Scraping cytology with a guidewire for pancreatic-ductal strictures. *Gastrointest Endosc*, 2009.
- Sawaki A, Kanemitsu Y, Mizuno N, Takahashi K, Nakamura T, Ioka T, Tanaka S, Nakaizumi A, Salem AA, Ueda R, Yamao K: Practical prognostic index for patients with metastatic pancreatic cancer treated with gemcitabine. *J Gastroenterol Hepatol*, 2008 ; 23 : 1292-1297.
- Uehara H, Nakaizumi A, Ishikawa O, Iishi H, Tatsumi K, Takakura R, Ishida T, Takano Y, Tanaka S, Takenaka A: Development of ductal carcinoma of the pancreas during follow-up of branch duct intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas. *Gut*, 2008 ; 57 : 1561-1565.
- Uehara H, Nakaizumi A, Iishi H, Takenaka A, Eguchi H, Ohigashi H, Ishikawa O: *In situ* telomerase activity in pancreatic juice may discriminate pancreatic cancer from other pancreatic diseases. *Pancreas*, 2008 ; 36 : 236-240.
- 中泉明彦: 臨床に役立つ消化器細胞診—胆膵腫瘍を中心に—. *香川臨床細胞雑誌*, 2008 : 20 : 3-9.
- Matsumoto T, Fujita M, Tarutani Y, Yamane T, Takashima H, Nakae I, Horie M: Whole-body periodic acceleration enhances brachial endothelial function. *Circ J*, 2008 ; 72(1): 139-143.
- Bir SC, Fujita M, Marui A, Hirose K, Arai Y, Sakaguchi H, Huang Y, Esaki J, Ikeda T, Tabata Y, Komeda M: New therapeutic approach for impaired arteriogenesis in diabetic mouse hindlimb ischemia. *Circ J*, 2008 ; 72(4): 633-640.
- Morimoto T, Sunagawa Y, Kawamura T, Takaya T, Wada H, Nagasawa A, Komeda M, Fujita M, Shimatsu A, Kita T, Hasegawa K: The dietary compound curcumin inhibits p300 histone acetyltransferase activity and prevents heart failure in rats. *J Clin Invest*, 2008 ; 118(3): 868-878.
- Takase B, Takeishi Y, Hirai T, Lee JD, Uzui H, Senda S, Miwa K, Hiraoka Y, Kinugawa T, Hosokawa R, Fujita M: Comparative effects of amlodipine monotherapy and combination therapy with betaxolol on cardiac autonomic nervous activity and health-related quality of life in patients with poorly controlled hypertension. *Circ J*, 2008 ; 72(5): 764-769.
- Miyamoto S, Ueda M, Ikemoto M, Naruko T, Itoh A, Tamaki S, Nohara R, Terasaki F, Sasayama S, Fujita M: Increased serum levels and expression of S100A8/A9 complex in infiltrated neutrophils in atherosclerotic plaque of unstable angina. *Heart*, 2008 ; 94(8): 1002-1007.
- Miwa K, Fujita M: Small heart syndrome in patients with chronic fatigue syndrome. *Clin Cardiol*, 2008 ; 31(7): 328-333.
- Terasaki F, Ukimura A, Tsukada B, Fujita S, Katashima T, Otsuka K, Otsuka K, Kanzaki Y, Shimomura H, Fujita M, Tanaka T, Kitaura Y: Enhanced expression of type 1 helper T cell cytokines in the myocardium of active cardiac sarcoidosis. *Circ J*, 2008 ; 72(8): 1303-1307.
- Fujita M, Yamazaki T, Hayashi D, Kohro T, Okada Y, Nagai R, The JCAD Study Investigators: Pleiotropic effects of statins on cardiovascular events in the Japanese Coronary Artery Disease study. *Int J Cardiol*, 2008 ; 129 : 294-296.
- Morimoto T, Fujita M, Kawamura T, Sunagawa Y, Takaya T, Wada H, Shimatsu A, Kita T, Hasegawa K: Myocardial regulation of p300 and p53 by doxorubicin involves ubiquitin pathways. *Circ J*, 2008 ; 72(9): 1506-1511.
- Miwa K, Fujita M: Gender difference in oxidative stress and its genesis by analysis of serum α -tocopherol concentrations in a Japanese population. *Int J Cardiol*, 2008 ; 129 : 453-454.
- Wada H, Abe M, Ono K, Morimoto T, Kawamura T, Takaya T, Satoh N, Fujita M, Kita T, Shimatsu A, Hasegawa K: Statins activate GATA-6 and induce differentiated vascular smooth muscle cells. *Biochem Biophys Res Commun*, 2008 ; 374 : 731-736.
- Fujita M, Morimoto T, Ono K, Terasaki F: Pleiotropic effects of sarpogrelate in cardiovascular diseases. *Therapeutic Res*, 2008 ; 29(11): 1925-1931.
- Miwa K, Fujita M: Increased oxygen stress suggested by low serum vitamin E concentrations in patients with chronic fatigue syndrome. *Int J Cardiol*, 2008 ; Aug. 4 [Epub ahead of print].
- 藤田正俊, 猪飼亜希子, 森本達也, 中江 出: オルメサルタン服薬時刻の起床時血圧に及ぼす影響. *Therapeutic Res*, 2008 ; 29(4): 565-568.
- 三谷智子, 藤田正俊, 小川久雄, 木下法之, 水重克文, 奥村 謙, 木原康樹, 竹石恭知, 野原隆司, 宮崎俊一, 三國谷淳, 李 鍾大, 平井忠和, 渡邊能行: たこつば心筋症患者の心理社会的特性に関するケース・コントロール研究. *心臓*, 2008 : 40(12) : 1081-1086.

藤田正俊, 高瀬凡平, Zanchetti A: ESH/ESC 高血圧管理ガイドライン. *Current Opinions in Antihypertensive Therapy at ESH 2007*, 2008; 1-7.

森本達也, 長谷川浩二, 藤田正俊: 天然物クルクミンによる心筋細胞核をターゲットとした新しい心不全治療. *循環器専門医*, 2008; 16(2): 253-259.

Rahadiani N, Takakuwa T, Tresnasari K, Morii E, Aozasa K: Latent membrane protein-1 of Epstein-Barr virus induces the expression of B-cell integration cluster, a precursor form of microRNA-155, in B lymphoma cell lines. *Biochem Biophys Res Commun*, 2008; 377(2): 579-83.

Inoue M, Takakuwa T, Minami M, Shiono H, Utsumi T, Kadota Y, Nasu T, Aozasa K, Okumura M: Clinicopathologic factors influencing postoperative prognosis in patients with small-sized adenocarcinoma of the lung. *J Thorac Cardiovasc Surg*, 2008; 135(4): 830-6.

Liu A, Takakuwa T, Fujita S, Luo WJ, Tresnasari K, Van den Berg A, Poppema S, Aozasa K: ATR alterations in Hodgkin's lymphoma. *Oncol Rep*, 2008; 19(4): 999-1005.

Aozasa K, Takakuwa T, Hongyo T, Yang WI: Nasal NK/T-cell lymphoma: epidemiology and pathogenesis. *Int J Hematol*, 2008; 87(2): 110-7.

Takakuwa T, Tresnasari K, Rahadiani N, Miwa H, Daibata M, Aozasa K: Cell origin of pyothorax-associated lymphoma: a lymphoma strongly associated with Epstein-Barr virus infection. *Leukemia*, 2008; 22(3): 620-7.

Jin T, Fujii F, Komai Y, Seki J, Seiyama A, Yoshioka Y: Preparation and Characterization of Highly Fluorescent, Glutathione-coated Near Infrared Quantum Dots for In Vivo Fluorescence Imaging. *Int J Mol Sci*, 2008; 9(10): 2044-2061.

Jin T, Yoshioka Y, Komai Y, Seki J, Seiyama A: Gd3+-Functionalized Near-Infrared Quantum Dots for In Vivo Dual-modal (Fluorescence/Magnetic Resonance) Imaging. *Chem Commun (Camb)*, 2008; 30(44): 5764-5766.

Seiyama A: Dissociation of Stimulus-Induced Responses in Regional Cerebral Blood Flow and Blood Volume in the Visual Cortex of Humans. *健康科学*, 2007; 4: 7-18.

Kohno S, Miyai I, Seiyama A, Oda I, Ishikawa A, Tsuneishi S, Amita T, Shimizu K: Removal of the skin blood flow artifact in functional near-infrared spectroscopic imaging data through independent component analysis. *J Biomed Opt*, 2007; 12: 062111(1-9).

Li JY, Ueda H, Seiyama A, Seki J, Konaka K, Yanagida T, Sakoda S, Yanagihara T: Ischemic vasoconstriction and tissue energy metabolism during global cerebral ischemia in Gerbils. *J Neurotrauma*, 2007; 24: 547-558.

Tajima G, Shiozaki T, Seiyama A, Mohri T, Kajino K, Yoshiya K, Nakae H, Tasaki O, Ogura H, Kuwagata Y, Tanaka H, Shimazu T, Sugimoto H: Mismatch recovery of regional cerebral blood flow and brain temperature during reperfusion after the prolonged brain ischemia in gerbils. *J Trauma*, 2007; 62: 36-43.

Yamazaki M, Shiina T, Yamakawa M, Takizawa H, Tonomura A, Mitake T: "Development of CAD System for Diffuse Disease Based on Ultrasound Elasticity Images". *Acoustical Imaging*, 2008; 29: 451-456.

Shiina T, Yoshida M, Yamakawa M, Nitta N: "Microscopic Measurement of Three-Dimensional Distribution of Tissue Viscoelasticity,". 2008; 11-18.

Shiina T: "In vitro 3-D Measurement of Tissue Viscoelasticity by Ultrasound". *Int J Biomed Eng*, 2008; 1(1): 1-6.

総説・その他

齊藤邦明, 竹田真由, 山本康子, 船渡忠男, 高橋香奈子, 帖佐光洋, 竹村正男, 清島 満: 電気泳動を主としたプロテオーム解析による新規バイオマーカー発掘の可能性. *生物物理化学*, 2008; 52(1): 15-18.

竹村正男, 齊藤邦明: 関節リウマチ検査・診療の新展開. *Medical Technology*, 2008; 36(1): 27-30.

岡 昌吾: 細胞膜における糖鎖複合体の構造と機能. *蛋白質核酸酵素 PNE 増刊*, Vol. 53, 2008; 12: 1495-1496.

森田一平, 角田品子, 岡 昌吾: 神経細胞のシグナル調節における糖鎖機能. *蛋白質核酸酵素 PNE 増刊*, Vol. 53, 2008; 12: 1497-1501.

田中幸子, 三須弘三, 福田順子, 高倉玲奈, 高野保名, 石田哲士, 井岡達也, 中泉明彦, 仲尾美穂: ソナゾイド造影エコーによる肝腫瘍の診断. *Innervation*, 2008; 23: 26-30.

中泉明彦, 竹中明美, 成瀬靖悦, 南雲サチ子, 芦村純一, 龍 あゆみ, 元林宏子, 小池久美子, 石田哲士, 高倉玲奈, 高野保名, 井岡達也, 上原宏之, 田中幸子, 富田裕彦: EUS-FNA の穿刺材料の取り扱い—細胞検査士による迅速細胞診の意義—. *消化器内視鏡*, 2008; 20: 670-675.

中泉明彦, 石田哲士, 高倉玲奈, 高野保名, 井岡達也, 仲尾美穂, 鈴木玲子, 福田順子, 上田絵理, 上原宏之, 津熊秀明, 田中幸子: 経過観察の方法と期間—膵癌検診の応用. 肝胆膵, 2008: 56: 913-919.

向井秀一, 久保田佳嗣, 中泉明彦, 田中聖人, 岡部純弘, 坂上 隆, 北野雅之, 光藤章二, 白坂大輔, 菊池英亮, 小山茂樹, 八隅秀二郎, 欺波将次, 安田健治朗: 悪性肝外胆管狭窄に対するステント留置術. 消化器科, 2008: 46: 96-101.

中泉明彦, 石田哲士, 高倉玲奈, 高野保名, 井岡達也, 上原宏之, 津熊秀明, 田中幸子: 嚢胞発見が膵管癌の診断につながるか—膵癌と嚢胞性病変との関係—. 消化器内視鏡, 2008: 20: 1052-1060.

中泉明彦, 石田哲士, 高倉玲奈, 高野保名, 井岡達也, 上原宏之, 津熊秀明, 田中幸子: 早期膵癌のスクリーニングと診断へのアプローチ—膵管拡張発見が膵管癌の診断につながるか?— 肝胆膵画像, 2008: 10: 551-557.

高野保名, 中泉明彦, 田中幸子: 早期膵癌発見のための腹部超音波テクニック. 内科, 2008: 102: 658-662.

講演

足立壮一: 難治性白血病, 癌治療におけるアポトーシスとオートファジー. 第82回日本薬理学会年会シンポジウム, 2009.3.

足立壮一: AMLb における dysplasia の意義. 第7回京滋血液腫瘍懇話会, 2009.3.

足立壮一: 小児血液腫瘍における多様な細胞死機序. 第42回日本癌治療学会 ワークショップ, 2007.10.

足立壮一: 血液悪性腫瘍における多様な細胞死機序. 第69回日本血液学会, 第49回日本臨床血液学会合同集会シンポジウム, 2007.10.

岡 昌吾: 糖鎖に内在される生物情報の解読 (神経機能, 発生に重要な糖鎖を中心に). 2008.5, 神戸薬科大学.

岡 昌吾: 糖鎖に内在される生体情報の解読を目指して. 2008.7, 京都大学再生医科学研究所 生物医工学サロン.

岡 昌吾: 神経機能と発生に重要な糖鎖. 2008.7, 東海大学.

Nakaizumi A, Ishida T, Takakura R, Takano Y, Ioka T, Tanaka S: Identification of the high risk group for the pancreatic cancer and the usefulness and problems of the

medical check up system for the early detection of pancreatic cancer. The International Pancreatic Research Forum, 2009.3, Tokyo.

中泉明彦: 膵胆道がんの診断と治療の最近の進歩—内視鏡的アプローチを中心に—. 第37回京都桂消化器懇話会, 2008.4, 京都 [特講].

中泉明彦: 膵がん高危険群の設定と膵定期検診システムの有用性と課題. 第38回九州膵研究会, 2008.6, 福岡 [特講].

中泉明彦: 「膵癌の治療成績向上を目指して—早期診断, 高危険群, 内科的治療—. 第25回消化器系疾患研究会, 2008.6, 大阪 [特講].

中泉明彦: 膵癌のハイリスク群の同定と診断. 大阪府医師会医学会主催学術講演会, 2009.1, 大阪 [一般].

中泉明彦: 胆汁細胞診の判定基準. 大阪府医師会細胞診管理委員会, 衛生検査所細胞診管理指導医師, 細胞診担当者懇談会, 2009.2, 大阪 [特講].

Fujita M: Heparin potentiates coronary collateral arteriogenesis. Special Seminar at Wallenberg laboratory at University of Gothenburg, 2008.8, Sweden.

藤田正俊: 生活習慣病における高脂血症と高血圧の薬物治療. 生活習慣病フォーラム in 徳島, 2008.7, 徳島.

藤田正俊: 心不全の病態, 治療の新たな展望. 第126回姫路循環器研究会, 2008.9, 姫路.

Shiina T: Keynote speech: "Ubiquitous Image Surveillance and Its Medical Application". 第3回医用生体国際シンポジウム (The 3rd Int Symposium on Biomedical Engineering), 2008.11, Bangkok.

学会発表

佐藤正夫, 竹村正男, 四戸隆基, 田中 領, 斉藤邦明, 清水克時, 清島 満: 末梢血リンパ球数からみた関節リウマチに対するインフリキシマブ療法の効果判定の可能性について. 第52回日本リウマチ学会総会, 2008.4, 札幌市.

Sato M, Takemura M, Tanaka R, Saito K, Shimizu K, Seishima M: Modification of peripheral lymphocyte numbers predicts the effectiveness of infliximab therapy in patients with rheumatoid arthritis. EULAR-2008, 2008.6, Paris.

星 雅人, 斉藤邦明, 高橋 健, 大山正巳, 富田栄一, 竹村正男, 伊藤弘康, 清島 満: 成人T細胞性白血病における indoleamin 2,3-dioxygenase の関与について

て。第48回日本臨床化学会総会, 2008.8, 静岡市。

Sato M, Takemura M, Shinohe R, Tanaka R, Saito K, Shimizu K, Seishima M: Modifications of serum cytokine levels in rheumatoid arthritis patients during anti-TNF alpha therapy. 13th APLAR (Asia Pacific League of Associations of Rheumatology), 2008.9, Yokohama.

Sato M, Takemura M, Shinohe R, Tanaka R, Saito K, Shimizu T, Seishima M: Changes of peripheral lymphocytes counts predicts the efficacy of infliximab therapy in patients with rheumatoid arthritis. 13th APLAR (Asia Pacific League of Associations of Rheumatology), 2008.9, Yokohama.

星 雅人, 齊藤邦明, 村上由希, 松本圭史, 有岡祐子, 田中 領, 大澤陽介, 伊藤弘康, 松波英寿, 清島満: Toxoplasma gondii 感染時の indoleamin 2,3-dioxygenase によるトリプトファン代謝の役割. 第2回日本アミノ酸学会, 2008.10, 東京都。

Ohtaki H, Ito H, Ando K, Ishikawa T, Saito K, Yokochi T, Moriwaki H, Seishima M: Indoleamine 2,3-dioxygenase contributes to attenuation of lipopolysaccharide-induced nitric oxide production by peritoneal cells stimulated with α -galactosylceramide. 第82回日本免疫学会総会・学術集会, 2008.12, 京都市。

稲葉一寿, 深澤嘉伯, 堀内勲生, 松田健太, 姫野愛, 松山めぐみ, 伊吹謙太郎, 五十嵐樹彦, 速水正憲, 三浦智行: SHIV-KS661 長期感染アカゲザルにおけるウイルス増殖, CD4 陽性T細胞の減少および Enteropathy について. 第56回日本ウイルス学会学術集会, 2008.10, 岡山。

井戸栄治, 石松美沙, 三浦智行, 多田哲子, 多田秀子, 伊吹謙太郎: HIV-1 の逆転写酵素とインテグラーゼ遺伝子を持つ SHIV-rti はアカゲザルに持続感染しエイズ様症状を引き起こす. 第56回日本ウイルス学会学術集会, 2008.10, 岡山。

深澤嘉伯, 伊吹謙太郎, 稲葉一寿, 齊藤尚紀, 姫野愛, 平井 郁, 松田健太, 松山めぐみ, 元原麻貴子, 速水正憲, 五十嵐樹彦, 三浦智行: nef 欠損弱毒生ワクチン免疫ザルに対する急性発症型 SHIV 攻撃接種後早期でのウイルス動態および免疫細胞の解析. 第22回日本エイズ学会学術集会・総会, 2008.11, 大阪。

松田健太, 稲葉一寿, 伊吹謙太郎, 深澤嘉伯, 松山めぐみ, 齊藤尚紀, 堀池麻里子, 平井 郁, 姫野 愛, 速水正憲, 五十嵐樹彦, 三浦智行: ワクチン評価に有用な R5 指向性 SHIV の作製. 第22回日本エイズ学会学術集会・総会, 2008.11, 大阪。

井戸栄治, 石松美沙, 三浦智行, 多田哲子, 多田秀子, 伊吹謙太郎: HIV-1 由来の pol 遺伝子を持つ SHIV-rti のアカゲザル *in vivo* 継代による感染増殖能の増加. 第22回日本エイズ学会学術集会・総会, 2008.11, 大阪。

足立壮一: 全国共同研究による小児 AML 治療法の確立. 第17回京都がん研究会, 2009.2.

才田 聡, 野村安隆, 栗屋智就, 森嶋達也, 新里亜紀, 梅田雄嗣, 松原 央, 渡邊健一郎, 足立壮一, 中畑龍俊: 副腎白質ジストロフィー進行例に骨髄非破壊的処置を用いて臍帯血移植を施行した2例. 第31回日本造血細胞移植学会総会, 2009.2.

森嶋達也, 松原 央, 野村安隆, 才田 聡, 新里亜紀, 渡邊健一郎, 足立壮一, 森尾友宏, 中畑龍俊: 臍帯血移植後に一時的に donor 由来の芽球の出現をみた乳児白血病の再発例. 第31回日本造血細胞移植学会総会, 2009.2.

森嶋達也, 松原 央, 加藤 格, 才田 聡, 新里亜紀, 梅田雄嗣, 渡邊健一郎, 足立壮一, 中畑龍俊: 小児血液悪性腫瘍患者におけるプロカルシトニンの臨床的意義. 第70回日本血液学会総会, 2008.10.

佐藤知彦, 土岐 力, 金崎里香, 徐 剛, 照井君典, 金兼弘和, 三浦正義, 足立壮一, 右田昌宏, 森永信吾, 中野崇秀, 遠藤幹也, 小島勢二, 清井 仁, 間野博行, 伊藤悦郎: ダウン症関連白血病および TMD における JAK3 遺伝子変異の機能解析. 第70回日本血液学会総会, 2008.10.

土岐 力, 金崎里香, 足立壮一, 徐 剛, 佐藤知彦, 鈴木かほり, 田内久道, 遠藤幹也, 伊藤悦郎: ダウン症関連白血病細胞の増殖における Stem cell factor/KIT シグナリング. 第70回日本血液学会総会, 2008.10.

松原 央, 足立壮一, 加藤 格, 才田 聡, 森嶋達也, 新里亜紀, 渡邊健一郎, 中畑龍俊: シクロスポリリン3時間点滴静注法と C3 モニタリングについて—小児臍帯血移植10例の検討—. 第70回日本血液学会総会, 2008.10.

上辻由里, 足立壮一, 渡部基信, 松原 央, 水嶋康浩, 平海良美, 由井理洋, 渡邊健一郎, 黒田純也, 芦原英司, 木村晋也, 前川 平, 中畑龍俊: 新規 Bcr-Abl 阻害剤 INNO-406 による bcr-abl 陽性白血病細胞株に対する細胞死誘導. 第70回日本血液学会総会, 2008.10.

野村安隆, 森嶋達也, 足立壮一, 新里亜紀, 才田

聡, 梅田雄嗣, 松原 央, 渡邊健一郎, 中畑龍俊, 石西綾美, 松本雅則, 藤村吉博: 血栓性血小板減少性紫斑病に早期の血漿交換療法が有用であった一女児例. 第409回日本小児科学会京都地方会学術集会, 2008.9.

徳舛麻友, 松原 央, 納富誠司郎, 赤川美絵, 瓜生久美子, 加藤 格, 梅田雄嗣, 渡邊健一郎, 足立壮一, 中畑龍俊: 脊柱管内に広範に浸潤し多発遠隔転移を認めた治療抵抗性 extrarenal malignant rhabdoid tumor の1乳児例. 第408回日本小児科学会京都地方会学術集会, 2008.5.

加藤 格, 梅田雄嗣, 瓜生久美子, 徳舛麻友, 松原央, 渡邊健一郎, 足立壮一, 中畑龍俊, 阪本靖介, 岡本晋弥, 江川裕人, 上本伸二: 生体肝移植後再発した肝芽腫に対して自己末梢血幹細胞移植を施行した小児2症例の検討. 第30回日本造血細胞移植学会総会, 2008.2.

殿山泰弘, 安西大輔, 池田篤史, 角田品子, 木下政人, 川壽敏祐, 岡 昌吾: Beta1,4-galactosyltransferase 2 is required for convergence and extension movements during medaka (*Oryzias latipes*) gastrulation. 第41回日本発生生物学会 (国際発生生物学会と合同), 2008.5, 徳島.

岡 昌吾: スパイン形成における HNK-1 糖鎖の役割. 第31回日本神経科学学会, 2008.7, 東京.

木塚康彦, 竹内祐介, 森田一平, 角田品子, 岡 昌吾: 糖転移酵素 GlcAT-P の細胞質領域による分泌制御と活性調節. 第28回日本糖質学会年会, 2008.8, つくば.

Anzai D, Tonoyama Y, Tane E, Oka S: The functional analysis of HNK-1 carbohydrate in medaka embryogenesis. Joint meeting of the Socié'te' France de Biologie du Développement/Japanese Society of Developmental Biologists, 2008.9, France.

Kizuka Y, Tonoyama Y, Oka S: Two GlcAT-P isoforms are distinctly transported in cell Clinical and Translational Research on Cancer. Glycomics Applications, 2009.3, 伊勢.

Tanaka S, Fukuda J, Nakaizumi A, Ioka T, Takano Y, Takakura R, Ishida T: Sonographic Virtual Cystoscopy for the Characterization of Pancreatic Cystic Lesions. RSNA 2008 (Radiological Society of North America), 2008.12, USA [一般].

中泉明彦: 消化器細胞診 実習と症例解説. 大阪府医師会臨床細胞研究会, 2008.7, 大阪 [一般].

中泉明彦: ERCP とその関連手技. 消化器内科基礎講座, 2008.7, 大阪 [一般].

中泉明彦, 田中幸子: 膵癌早期診断へのアプローチ. 第13回日本外科病理学会学術集会, 2008.9, 東京 [シンポ].

中泉明彦, 井岡達也, 高野保名, 高倉玲奈, 竹中明美, 富田裕彦: 切除不能進行膵癌に対する体外 US 下腫瘍生検の有効性と安全性に関する研究. 第47回日本臨床細胞学会秋期大会, 2008.11, 東京 [ワークショップ].

中泉明彦: 膵がん早期診断をめざした当院検診の成果. 第40回多地点合同メディカル・カンファレンス, 2008.11, 四国がんセンター発信 [一般].

中泉明彦: コメンテーター. 第8回阪神膵臓外科研究会, 2009.2, 大阪 [一般].

中泉明彦, 石田哲士, 高倉玲奈, 高野保名, 井岡達也, 上原宏之, 田中幸子: 膵小低エコー SOL の取り扱い—膵癌早期診断のために—. 第11回膵癌治療を考える会, 2009.3, 大阪 [一般].

井岡達也, 石田哲士, 高倉玲奈, 高野保名, 中泉明彦, 田中幸子, 中村泰明, 西山勤司: 切除不能局所進行膵癌に対するジェムシタピンおよび S1 を併用した化学放射線療法 (特相試験). 第94回日本消化器病学会総会, 2008.5, 福岡 [一般].

井岡達也, 石田哲士, 高倉玲奈, 高野保名, 中泉明彦, 田中幸子: 切除不能胆道癌に対するゲムシタピン + S1 併用化学療法 (パラレル特相試験). 第94回日本消化器病学会総会, 2008.5, 福岡 [一般].

井岡達也, 石田哲士, 高倉玲奈, 高野保名, 中泉明彦, 田中幸子, 中村泰明, 西山勤司: 切除不能局所進行膵癌に対するゲムシタピンと S1 を併用した化学放射線療法の第特相試験. 第39回日本膵臓学会, 2008.7, 横浜 [一般].

井岡達也, 中泉明彦, 西山謹司: 切除不能の局所進行膵癌に対するゲムシタピンおよび S1 の2剤併用の化学放射線療法の試み. 第16回日本消化器関連学会週間 (JDDW), 2008.10, 東京 [シンポ].

井岡達也, 田中幸子, 中泉明彦: 膵癌高危険群に対する定期的超音波検診による膵癌早期診断の試み. 第16回日本消化器関連学会週間 (JDDW), 2008.10, 東京 [シンポ].

井岡達也, 中泉明彦, 田中幸子: がん性腹水を有する進行膵癌に対するファーストラインとしてのパクリタ

キセル+S1 併用化学療法 (Phase Ⅲ). 第46回日本癌治療学会, 2008.10, 名古屋 [パネル].

井岡達也, 中泉明彦, 西山勤司: 切除不能の局所進行膀胱癌の化学放射線療法: ゲムシタピンと S1 併用療法との同時併用 (Phase Ⅲ). 第46回日本癌治療学会, 2008.11, 名古屋 [パネル].

井岡達也, 田中幸子, 中泉明彦: 24時間徐放モルヒネ製剤 (カティアレ) は膀胱癌の癌性疼痛のみならず QOL も改善する. 第7回日本臨床腫瘍学会, 2009.3, 名古屋 [一般].

高野保名, 高倉玲奈, 中泉明彦, 大東弘明, 石川治, 米田玄一郎, 富田祐彦, 龍 あゆみ, 成瀬靖悦, 竹中明美: 膀胱細胞診が診断に有用であった早期膀胱癌の一例. 第47回日本臨床細胞学会秋期大会, 2008.11, 東京 [一般].

高倉玲奈, 高野保名, 福田順子, 三須弘三, 宮崎さや子, 石田哲士, 井岡達也, 吉岡二三, 中泉明彦, 田中幸子: 膀胱癌診断における造影エコー検査の役割. 日本超音波医学会 第81回学術集会, 2008.5, 神戸 [シンポ].

石田哲士, 高倉玲奈, 高野保名, 福田順子, 仲尾美穂, 三須弘三, 宮崎さや子, 井岡達也, 中泉明彦, 田中幸子: EUS-FNA にて診断した膀胱神経原性腫瘍の二例. 日本超音波医学会 第81回学術集会, 2008.5, 神戸 [一般].

福田順子, 田中幸子, 仲尾美穂, 上田絵理, 中泉明彦, 井岡達也, 高野保名, 高倉玲奈, 石田哲士, 吉岡二三: 膀胱嚢胞性病変の診断における 3D 画像の有用性. 日本超音波医学会第81回学術集会, 2008.5, 神戸 [一般].

上田絵理, 福田順子, 仲尾美穂, 鈴木玲子, 石田哲士, 高倉玲奈, 高野保名, 井岡達也, 中泉明彦, 田中幸子: 主膀胱管内進展を伴い, IPMC を疑った膀胱内分泌腫瘍の一例. 日本超音波医学会 関西地方学術集会, 2008.12, 神戸 [一般].

中泉明彦, 井岡達也, 田中幸子: 膀胱癌高危険群の絞り込みと早期診断を目指した膀胱検診の成果と限界. 第95回日本消化器病学会総会, 2009.5, 札幌 [ワークショップ].

Bir S, Esaki J, Marui A, Sakaguchi H, Arai Y, Hirose K, Ikeda T, Tabata Y, Fujita M, Komeda M: A novel therapeutic angiogenesis with sustained delivery form of platelet-rich plasma in mouse hindlimb ischemia model. The 57th Annual Scientific Session of the American College

of Cardiology, 2008.3, USA.

Otsuka K, Terasaki F, Ikemoto M, Katashima T, Fujita S, Kanzaki Y, Sohmiya K, Kono T, Fujita M, Kitaura Y: Anti-inflammatory effects of S100A8/A9 (MRP8/14) on experimental autoimmune myocarditis by modulating proinflammatory cytokine network. European Society of Cardiology Congress, 2008.8, Germany.

Miyamoto S, Fujita M, Nohara R, Hosokawa R, Inoko N, Nagai K, Nakane E, Oba M, Ueyama K, Uehara K: Novel treatment with periodic acceleration with a horizontal motion platform for anginal patients. European Society of Cardiology Congress, 2008.8, Germany.

Miwa K, Fujita M: Low cardiac output in young adults with chronic fatigue syndrome and small heart. European Society of Cardiology Congress, 2008.8, Germany.

Katashima T, Terasaki F, Ikura Y, Otsuka K, Murakami S, Ikemoto M, Fujita M, Naruko T, Ueda M, Kitaura Y: Enhanced expression of myeloid-related protein complex (MRP8/14) in the myocardium of patients with acute myocardial infarction. European Society of Cardiology Congress, 2008.8, Germany.

Morimoto T, Fujita M, Sunagawa Y, Kawamura T, Takaya T, Wada H, Shimatsu A, Kita T, Hasegawa K: Curcumin, a natural p300-specific histone acetyltransferase inhibitor, prevents the development of cardiac hypertrophy in rats. European Society of Cardiology Congress, 2008.8, Germany.

Takaya T, Morimoto T, Sunagawa Y, Wada H, Kawamura T, Shimatsu A, Fujita M, Fujita Y, Sawamura T, Hasegawa K: Left ventricular expression of lectin-like oxidized low-density lipoprotein receptor-1 serves as a biomarker of heart failure in the salt-sensitive Dahl rat model of hypertension. Scientific Sessions 2008 of the American Heart Association, 2008.11, USA.

Sunagawa Y, Morimoto T, Takaya T, Kawamura T, Wada H, Shimatsu A, Fujita M, Kita T, Hasegawa K: The kinase activity of cyclin-dependent kinase-9 is required for phosphorylation of p300 and its histone acetyltransferase activity during cardiomyocyte hypertrophy. Scientific Sessions 2008 of the American Heart Association, 2008.11, USA.

Sunagawa Y, Morimoto T, Kawamura T, Takaya T, Wada H, Kuwaki T, Yanagi S, Sugimoto A, Marui A, Ikeda T, Shimatsu A, Fujita M, Kita T, Hasegawa K: Granulocyte-colony stimulating factor and erythropoietin synergistically

improve left ventricular systolic function in heart failure after myocardial infarction in rats. Scientific Sessions 2008 of the American Heart Association, 2008.11, USA.

Bir S, Marui A, Esaki J, Tsubota H, Fujita M, Tabata Y, Ikeda T: An evolving approach of therapeutic angiogenesis with sustained release of platelet-rich plasma in diabetic mouse hind limb ischemia. Scientific Sessions 2008 of the American Heart Association, 2008.11, USA.

Bir S, Marui A, Esaki J, Yamahara K, Tsubota H, Fujita M, Tabata Y, Ikeda T: Sustained release of platelet-rich plasma, cocktail of potent angiogenic cytokines, restores blood perfusion by recruitment of bone marrow derived haematopoietic stem cells in the mouse hind limb ischemia. Scientific Sessions 2008 of the American Heart Association, 2008.11, USA.

Morimoto T, Fujita M, Shimatsu A, Kita T, Hasegawa K: A non-toxic dietary compound curcumin provides a novel heart failure therapy that targets nuclear signaling pathway in cardiac myocytes. The 72nd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2008.3, Fukuoka.

Sunagawa Y, Morimoto T, Kawamura T, Takaya T, Wada H, Shimatsu A, Fujita M, Kita T, Hasegawa K: Cyclin-dependent kinase-9 is required for histone acetyltransferase activity of p300. The 72nd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2008.3, Fukuoka.

Wada H, Satoh N, Ono K, Shinjo D, Morimoto T, Nakano T, Shimatsu A, Fujita M, Hasegawa K: A soluble VEGF receptor-2 is a possible novel biomarker of cardiovascular risk in the metabolic syndrome. The 72nd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2008.3, Fukuoka.

Miyamoto S, Hayashi N, Yamaguchi K, Inoko M, Nagai K, Uehara K, Nakane E, Abe T, Sasaki K, Nakashima J, Tanaka N, Ueyama K, Hosokawa R, Nohara R, Fujita M: Comparison of ventricular performance during right ventricular septal and apical pacing in patients with normal cardiac function by three-dimensional echocardiography. The 72nd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2008.3, Fukuoka.

Miwa K, Fujita M: Cardiac function fluctuates during exacerbation and remission in young adult patients with chronic fatigue syndrome and “small heart”. The 72nd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2008.3, Fukuoka.

Miwa K, Fujita M: Increased oxidative stress suggested by

low serum vitamin E (α -tocopherol) concentrations in patients with chronic fatigue syndrome. The 72nd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2008.3, Fukuoka.

Bu S, Shiina T, Yamakawa M, Takizawa H: “Adaptive Dynamic Grid Interpolation: A Robust, High-Performance Displacement Smoothing Filter for Myocardial Strain Imaging”. Proc of 2008 IEEE Ultrasonics Symposium, 2008; 753-756.

Yamazaki M, Takizawa H, Shiina T: “Computer-aided Diagnosis of Diffuse Disease based on Ultrasound Elasticity Images”. Proc of 2008 IEEE Ultrasonics Symposium, 2008; pp. 2033-2035.

Yamakawa M, Bu S, Shiina T: “Robust Strain Estimation Using Adaptive Dynamic Grid-Interpolation Model”. Proc of 2008 IEEE Ultrasonics Symposium, 2008; pp. 2021-2024.

リハビリテーション科学コース

理学療法学講座 (PT)

著 書

市橋則明: 運動学の基礎知識. 市橋則明編集, 運動療法学. 東京: 文光堂, 2008: 12-36.

市橋則明: 筋の構造と機能. 市橋則明編集, 運動療法学. 東京: 文光堂, 2008: 60-74.

市橋則明: 関節可動域制限に対する運動療法. 市橋則明編集, 運動療法学. 東京: 文光堂, 2008: 148-171.

市橋則明: 筋力低下に対する運動療法. 市橋則明編集, 運動療法学. 東京: 文光堂, 2008: 172-199.

建内宏重, 市橋則明: 関節機能の障害: 多関節の運動協調性評価—姿勢・基本動作評価のポイント. 嶋田智明編集, 変形性関節症. 東京: 文光堂, 2008: 28-40.

建内宏重, 市橋則明: 関節相互の運動を正常化する—多関節の運動協調性の改善. 嶋田智明編集, 変形性関節症. 東京: 文光堂, 2008: 120-131.

黒木裕士: 第2章. 身体運動の理解—運動学・運動力学・生体力学的基礎知識. 第2節 筋活動. 岩谷力, 黒澤 尚, 江藤文夫, 赤居正美, 星野雄一, 飛松好子編集, 運動器リハビリテーションクルズ. 東京: 南江堂, 2008: 57-60.

玉木 彰編著: DVD で学ぶ呼吸理学療法テクニク. 東京: 南江堂, 2008.

玉木 彰: 胸郭可動域練習/胸郭モビライゼーション

ン. 千住秀明他監修, 理学療法標準手技. 東京: 医学書院, 2008: 78-89.

玉木 彰: 呼吸機能の評価/動脈血液ガスの評価. 高橋仁美編著, 動画でわかる呼吸リハビリテーション 第2版. 東京: 中山書店, 2008: 65-79.

玉木 彰: 運動と呼吸機能. 市橋則明編著, 運動療法学. 東京: 文光堂, 2008: 80-87.

玉木 彰: 呼吸障害に対する運動療法. 市橋則明編著, 運動療法学. 東京: 文光堂, 2008: 367-379.

玉木 彰: 呼吸リハビリテーション (特発性肺線維症). 最新医学別冊, 2008: 140-146.

大畑光司: 発達と運動機能, 運動療法学 (市橋則明編). 東京: 文光堂, 2008: 124-136.

大畑光司: 発達障害に対する運動療法, 運動療法学 (市橋則明編). 東京: 文光堂, 2008: 345-366.

大畑光司: 片麻痺の原因, 脳血管障害とは, 中枢神経障害理学療法学テキスト (植松光俊編). 東京: 南江堂, 2008: 15-25.

池添冬芽: 骨粗鬆症患者に対する効果的な理学療法—特に転倒予防への取り組み—. 嶋田智明編, 課題別・理学療法技術ガイド. 東京: 文光堂, 2008: 569-596.

池添冬芽: 老化と運動機能. 市橋則明編, 運動療法学. 東京: 文光堂, 2008: 137-147.

池添冬芽: 加齢による機能障害に対する運動療法. 市橋則明編, 運動療法学. 東京: 文光堂, 2008: 435-449.

建内宏重: 痛みに対する運動療法. 市橋則明編, 運動療法学. 障害別アプローチの理論と実際. 文光堂, 2008: 331-344.

山田 実: 関節機能の障害: 筋力・支持性の評価. 嶋田智明編, 変形性関節症 何を考え, どう対応するか. 文光堂, 2008: 41-48.

原著論文

森本 剛, 雛田知子, 長尾能雅, 坪山直生: 臨床疫学的手法を用いて進める院内転倒・転落対策. *Osteoporosis Japan*, 2008; 16: 531-533.

Nakanishi R, Akiyama H, Kimura H, Otsuki B, Shimizu M, Tsuboyama T, Nakamura T: Osteoblast-targeted expression of *sfrp4* in mice results in low bone mass. *J Bone Miner Res*, 2008; 23: 271-7.

Ohata K, Tsuboyama T, Haruta T, Ichihashi N, Kato T,

Nakamura T: Relation between muscle thickness, spasticity, and activity limitations in children and adolescents with cerebral palsy. *Dev Med Child Neurol*, 2008; 50: 152-156.

Nakayama M, Tsuboyama T, Toguchida J, Hosaka T, Nakamura T: Natural course of desmoid-type fibromatosis. *J Orthop Sci*, 2008; 13: 51-5.

Ueda T, Naka N, Araki N, Ishii T, Tsuchiya H, Yoshikawa H, Mochizuki K, Tsuboyama T, Toguchida J, Ozaki T, Murata H, Kudawara I, Tanaka K, Iwamoto Y, Yazawa Y, Kushida K, Otsuka T, Sato K: Validation of radiographic response evaluation criteria of preoperative chemotherapy for bone and soft tissue sarcomas: Japanese Orthopaedic Association Committee on Musculoskeletal Tumors Cooperative Study. *J Orthop Sci*, 2008; 13: 304-12.

Akamizu T, Iwakura H, Ariyasu H, Murayama T, Sumi E, Teramukai S, Goto K, Ohnishi E, Akiyama H, Kawanabe K, Nankaku M, Ichihashi N, Tsuboyama T, Tamai K, Kataoka M, Nakamura T, Kangawa K: Effects of ghrelin treatment on patients undergoing total hip replacement for osteoarthritis: different outcomes from studies in patients with cardiac and pulmonary cachexia. *J Am Geriatr Soc*, 2008; 56: 2363-2365.

太田 恵, 大畑光司, 建内宏重, 西村 純, 森 公彦, 市橋則明: 整形外科疾患患者に対する体重免荷トレッドミル歩行トレーニングの即時効果. *理学療法科学*, 2008: 23: 753-757.

太田 恵, 建内宏重, 井上拓也, 永井宏達, 森 由隆, 市橋則明: 外乱刺激に対する予測の可否が体幹筋の筋活動に与える影響. *京都大学医学部人間健康科学部紀要*, 2008: 5: 23-28.

Kuroki H, Nakagawa Y, Mori K, Kobayashi M, Yasura K, Okamoto Y, Suzuki T, Nishitani K, Nakamura T: Ultrasound properties of articular cartilage in knee osteoarthritis: relation to clinical assessment (International Cartilage Repair Society grade). *Arthritis Research & Therapy*, 2008; 10: R78.

岡 徹, 黒木裕士, 古川泰三, 水野泰行: 遠位上腕二頭筋腱断裂術後の早期理学療法の経験. *理学療法ジャーナル*, 2008: 42(10): 895-898.

岡 徹, 黒木裕士, 水野泰行, 古川泰三, 中川泰彰: 膝関節骨・軟骨疾患に対する骨軟骨移植術 (モザイクプラスティ) 後の機能回復経過~40歳未満群と40歳以上群の比較~. *運動療法と物理療法*, 2008: 19: 50-5.

- 岡 徹, 黒木裕士, 水野泰行, 古川泰三, 中川泰彰: 膝離断性骨軟骨炎に対する骨軟骨移植術後の膝機能とリハビリテーション〜4症例の短期経過〜. 膝, 2008; 33(1): 74-78.
- Sun X, Saitsu H, Shiota K, Ishibashi M: Expression dynamics of the LIM-homeobox genes, *Lhx1* and *Lhx9*, in the diencephalon during chick development. International Journal of Developmental Biology, 2008; 52: 33-41.
- Komada M, Saitsu H, Shiota K, Ishibashi M: Expression of *Fgf15* is regulated by both activator and repressor forms of *Gli2* *in vitro*. Biochem Biophys Res Commun, 2008; 369: 350-356.
- Komada M, Saitsu H, Kinboshi M, Miura T, Shiota K, Ishibashi M: Hedgehog signaling is involved in development of the neocortex. Development 2008; 135: 2717-2727.
- Miura T, Hartmann D, Kinboshi M, Komada M, Ishibashi M, Shiota K: The cyst-branch difference in developing chick lung results from a different morphogen diffusion coefficient. Mech Dev, 2009; 126: 160-172.
- 解良武士, 長谷川 聡, 大島洋平, 玉木 彰: 呼吸同調現象 (LRC) の気道閉塞圧 (P0.1) からの検討. 日本生理人類学会誌, 2008; 13(4): 35-42.
- Wakamura T, Suzuki k, Toichi M, Tamaki A, Horita S, Matsugi K, Miyajima A: Effect of body position during afternoon nap on body temperature and heart rate variability in young healthy Japanese men. 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻紀要 健康科学, 2008; 5: 17-21.
- 岡田泰昌, 玉木 彰, 室 繁郎, 越久仁敬, 三嶋理晃: 慢性呼吸器疾患患者の歩行時呼吸困難感軽減を目的とした歩行補助電動カートの開発. 日本内科学会雑誌, 2008; 97: 243-245.
- 田中利明, 山田陽介, 大畑光司, 矢部京之助: 頸髄損傷者の体水分における細胞内外液分布の特徴. 日本運動生理学雑誌, 2008; 15(1): 11-17.
- Aoyama T, Okamoto T, Kohno Y, Fukiage K, Otsuka S, Furu M, Ito K, Jin Y, Nagayama S, Nakayama T, Nakamura T, Toguchida J: Cell-specific epigenetic regulation of *ChM-I* gene expression: crosstalk between DNA methylation and histone acetylation. Biochem Biophys Res Commun, 2008; 365(1): 124-130.
- Fukiage K, Aoyama T, Shibata KR, Otsuka S, Furu M, Kohno Y, Ito K, Jin Y, Fujita S, Fujibayashi S, Neo M, Nakayama T, Nakamura T, Toguchida J: Expression of vascular cell adhesion molecule-1 indicates the differentiation potential of human bone marrow stromal cells. Biochem Biophys Res Commun, 2008; 365(3): 406-412.
- Hasegawa S, Aoyama T, Kakinoki R, Toguchida J, Nakamura T: Bilateral phlegmasia dolens associated with Trousseau's syndrome: a case report. Arch Phys Med Rehabil, 2008; 89(6): 1187-1190.
- Ishibe T, Nakayama T, Aoyama T, Nakamura T, Toguchida J: Neuronal differentiation of synovial sarcoma and its therapeutic application. Clin Orthop Relat Res, 2008; 466(9): 2147-2155.
- Nagayama S, Yamada E, Kohno Y, Aoyama T, Fukukawa C, Kubo H, Watanabe G, Katagiri T, Nakamura Y, Sakai Y, Toguchida J: Inverse correlation of the up-regulation of *FZD10* expression and the activation of beta-catenin in synchronous colorectal tumors. Cancer Sci, 2009; 100(3): 405-412.
- Otsuka S, Aoyama T, Furu M, Ito K, Jin Y, Nasu A, Fukiage K, Kohno Y, Maruyama T, Kanaji T, Nishiura A, Sugihara H, Fujimura S, Otsuka T, Nakamura T, Toguchida J: PGE2 signal via EP2 receptors evoked by a selective agonist enhances regeneration of injured articular cartilage. Osteoarthritis Cartilage, 2009; 17(4): 529-538.
- Ito K, Aoyama T, Fukiage K, Otsuka S, Furu M, Jin Y, Nasu A, Ueda M, Kasai Y, Ashihara E, Kimura S, Maekawa T, Kobayashi A, Yoshida S, Niwa H, Otsuka T, Nakamura T, Toguchida J: A novel method to isolate mesenchymal stem cells from bone marrow in a closed system using a device made by non-woven fabric. Tissue Eng Part C Methods, In Press.
- 窪田愛恵, 矢野義孝, 森本 剛, 関 進, 高田香織, 蔵本伸生, 前田祐子, 赤池昭紀, 平出 敦: 薬学 OSCE におけるコミュニケーション能力評価の信頼性に関する検討. 薬学雑誌, 2009; 129: 609-616.
- Hamasu S, Morimoto T, Kuramoto N, Horiguchi M, Iwami T, Nishiyama C, Takada K, Kubota Y, Seki S, Maeda Y, Sakai Y, Hiraide A: Effects of BLS training on factors associated with attitude toward CPR in college students. Resuscitation, 2009; 80: 359-364.
- 窪田愛恵, 矢野義孝, 森本 剛, 高田香織, 蔵本伸生, 関 進, 前田祐子, 赤池昭紀, 平出 敦: 薬学 OSCE での患者対応課題における評価方法に関する検討. 医療薬学, 2008; 34-11: 1004-1010.

Kuramoto N, Morimoto T, Kubota Y, Maeda Y, Seki S, Takada K, Hiraide A: Public perception and willingness to perform bystander CPR in Japan. *Resuscitation*, 2008; 79: 475-481.

Kobori E*, Maeda Y*, Kubota Y, Seki S, Takada K, Kuramoto N, Hiraide A, Morimoto T (* Equal contribution): Major qualitative research methods in patient-doctor communication studies. *Gen Med*, 2008; 9: 5-12.

西岡弘晶, 奥村 幸, 足立比呂美, 池添冬芽, 濱川慶之: 認知症高齢者を対象としたカラーセラピー(色彩心理療法)の効果に関する実践研究. 大阪ガス福祉財団研究・調査報告集, 2008: 21: 45-50.

島 浩人, 池添冬芽: 高齢者の転倒を予測するための Dual Task test の有効性. 大阪ガス福祉財団研究・調査報告集, 2008: 21: 37-44.

建内宏重: 整形外科疾患における理学療法の基本. 理学療法京都, 2009: 38: 41-48.

建内宏重, 市橋則明: 高齢者における足底感覚と足圧分布および足底接地状態が立位バランス能力に与える影響. 健康科学, 2008: 4: 25-30.

山田 実, 上原捻章: 運動イメージ想起能力の年代別基準値の作成および高齢者における転倒との関係. 理学療法科学, 2008: 23: 579-584.

山田 実: 二重課題条件下でのバランストレーニングには転倒予防効果があるのか? *Osteoporosis Japan*, 2008; 16: 169-171.

山田 実, 上原捻章: 環境の差異による姿勢動揺の変化. 理学療法ジャーナル, 2008: 42: 885-891.

山田 実, 上原捻章, 浅井 剛, 前川 匡, 小野 玲, 平田総一郎: Dual-task balance training には転倒予防効果があるのか?—地域在住高齢者における検討—. 理学療法ジャーナル, 2008: 42: 439-455.

山田 実, 村田 伸, 太田 尾, 村田 潤: 高齢者における二重課題条件下での歩行能力には注意機能が関与している. 理学療法科学, 2008: 23: 435-440.

山田 実, 森岡 周: 手指運動による弁別課題が脳血流量に及ぼす影響—fNIRS を用いて—. 理学療法科学, 2008: 23: 261-266.

山田 実, 上原捻章: 情動の変化によって姿勢動揺は変化するのか? 理学療法兵庫, 2008: 14: 35-38.

Moriaka S, Yamada M, Koori T: Frontal lobe activity

during the performance of spatial tasks; fNIRS study. *Journal of Physical Therapy Science*, 2008; 20: 135-139.

総説・その他

市橋則明: 関節可動域制限に対する運動療法. 理学療法京都, 2008: 37: 47-51.

建内宏重, 市橋則明: 筋力低下に対する物理療法の EBPT 実践モデル. 理学療法, 2008: 25: 672-680.

建内宏重, 池添冬芽, 市橋則明, 山口 淳: 【骨粗鬆症のリハビリテーション】高齢者の転倒予防訓練の理論と実際. *MEDICAL REHABILITATION*, 2008; 89: 35-44.

玉木 彰: 呼吸理学療法の進め方と効果. 臨床スポーツ医学, 2008: 25(11): 1285-1290.

寺本信嗣, 玉木 彰: 全身疾患としての COPD—なぜ全身病として扱う必要があるのか—. 日呼ケアリハ学誌, 2008: 18(2): 95-99.

塩谷隆信, 佐竹将宏, 玉木 彰, 高橋仁美: 実地医家が行う COPD 患者の呼吸リハビリテーション—すぐに役立つ日常生活の工夫—. *Medical Practice*, 2008; 25(11): 2021-2027.

塩谷隆信, 佐竹将宏, 玉木 彰, 加賀谷斉, 高橋仁美: 「こころ」の評価. 呼吸器ケア 冬季増刊, 2008: 56-65.

大畑光司, 市橋則明, 太田 恵, 坪山直生: 体重免荷トレッドミルによる歩行訓練の理論と実践. 運動療法と物理療法, 2008: 19(4): 251-256.

戸口田淳也, 青山朋樹, 柴田弘太郎ロバーツ, 吹上謙一: 間葉系幹細胞の増殖と分化再生医療への進む最先端の幹細胞研究. 2008: 26: 668-675.

青山朋樹, 大塚聖視, 戸口田淳也: 軟骨の再生療法. リウマチ科, 2008: 39(6): 506-512.

青山朋樹, 戸口田淳也: iPS 細胞—再生医療への展望と治療. *Diabetes Journal*, 2008; 36(4): 38.

講演

市橋則明: 歩行障害に対するバイオメカニクスのアプローチ. 第41回つくば地域リハ・セミナー, 2008.1, 茨城.

市橋則明: 下肢の運動学と理学療法. 日本理学療法士協会現職者講習会, 2008.2, 京都.

市橋則明: 特色のある理学療法教育の実践—4年制理学療法教育に必要なカリキュラム—臨床実習終了後の教育を中心に. 第43回日本理学療法学会大会 シン

業績リスト

ポジウム, 2008.5, 福岡.

市橋則明: 関節可動域制限に対する運動療法 凹凸の法則は間違いである. 第43回日本理学療法学会, 2008.5, 福岡.

市橋則明: 筋力トレーニングの理論と実際. 京都府理学療法士会新人教育基礎講座, 2008.6, 京都.

市橋則明: 肩関節の評価と運動療法. 関西リハビリテーション専門学校 SV 会議特別講演会, 2008.7, 兵庫.

市橋則明: 高齢者の身体特性. 福祉用具プランナー研修会, 2008.7, 京都.

市橋則明: 下肢の運動学と理学療法. 日本理学療法士協会現職者講習会, 2008.7, 京都.

市橋則明: 歩行のバイオメカニクスとトレーニング. 第8回歩行リハビリテーションセミナー, 2008.8, 大阪.

市橋則明: 脳卒中片麻痺の歩行障害に対するバイオメカニクスのアプローチ. 兵庫県西播・中播ブロック合同研修会, 2008.8, 兵庫.

市橋則明: 理学療法におけるパラダイムシフト—理学療法の定説を問う—. 第22回中国ブロック理学療法士学会, 2008.9, 鳥取.

市橋則明: 歩行のバイオメカニクスとトレーニング. 第9回歩行リハビリテーションセミナー, 2008.9, 東京.

市橋則明: 運動学に基づいた運動療法の理論と実際. 京都府理学療法士会 第1回新人技術講習会, 2008.11, 京都.

市橋則明: 筋の機能とトレーニング. 文京学院大学ブラッシュアップセミナー, 2008.11, 埼玉.

市橋則明: 肩関節の運動学に基づいた運動療法の理論と実際. 三重県士会研修会, 2008.12, 三重.

市橋則明: 第1部 筋の機能とトレーニング, 第2部 歩行障害に対するバイオメカニクスのアプローチ. 岡山医療技術専門学校特別講演, 2008.12, 岡山.

市橋則明: 運動学に基づいた運動療法の理論と実際. 京都府理学療法士会 第2回新人技術講習会, 2008.12, 京都.

玉木 彰: 周術期呼吸リハビリテーション. 松山市立病院特別講演会, 2008.1, 愛媛.

玉木 彰: 慢性閉塞性肺疾患の病態と呼吸リハビリ

テーション. 南京都病院特別講演会, 2008.1, 京都.

玉木 彰: ベッドサイドにおける呼吸理学療法. 呼吸・循環セミナー, 2008.1, 大阪.

玉木 彰: スタージング. 第7回日本看護社会政策学会教育講演, 2008.2, 京都.

玉木 彰: フィジカルアセスメントと周術期呼吸理学療法. 日本理学療法士協会認定理学療法士(呼吸)講習会, 2008.2, 大阪.

玉木 彰: ICUにおける呼吸理学療法. 秋田呼吸リハビリテーション懇話会, 2008.3, 秋田.

玉木 彰: 慢性呼吸不全患者に対する基礎的評価とアプローチ—COPDを中心に—. 医大府理学療法士会泉州ブロック研修会, 2008.3.

玉木 彰: ベッドサイド呼吸理学療法. 第5呼吸ケアカンファレンス, 2008.6, 神戸.

玉木 彰: 臓器移植における呼吸理学療法. 日本理学療法士協会内部障害研究部会, 呼吸理学療法セミナー, 2008.7, 札幌.

玉木 彰: 急性期病院における呼吸ケア. 済生会京都府病院 特別研修会, 2008.8, 京都.

玉木 彰: 急性呼吸不全—術後の呼吸リハビリ—. 第48臨床呼吸機能講習会, 2008.8, 長野.

玉木 彰: 呼吸障害とリハビリテーション. 全国訪問看護事業協会研修会, 2008.9, 大阪.

玉木 彰: 動脈血液ガス分析値の解釈/外科手術前後の呼吸理学療法総論. 日本理学療法士協会第984回現職者講習会, 2008.9, 京都.

玉木 彰: 人工呼吸療法における理学療法士の役割. 人工呼吸器公開セミナー, 2008.9, 金沢.

玉木 彰: 胸・腹部外科手術前後の呼吸理学療法. 第9回群馬呼吸リハビリテーション研修会, 2008.9, 群馬.

玉木 彰: チームで取り組む呼吸理学療法. 特州会関西ブロック学会特別講演, 2008.11.

玉木 彰: 人工呼吸療法における理学療法士の役割. 人工呼吸器公開セミナー, 2008.11, 神戸.

Tomoki Aoyama: Clinical application of mesenchymal stem cells for aseptic bone necrosis. 3rd Anniversary of NCRM, 2008.10, India.

池添冬芽: 地域で取り組む高齢者の転倒予防と体力づ

くりについて. 大阪府中河内圏地域リハビリテーション研修会, 2008.1, 大阪.

池添冬芽: 転倒を防ぐ体力づくり. 京都市左京区民講座, 2008.3, 京都.

池添冬芽: 高齢者の整形外科疾患と転倒予防. 京都市筋力トレーニングボランティア養成講座, 2008.3, 京都.

建内宏重: 姿勢制御と股関節機能. 日本理学療法士協会現職者講習会「姿勢制御と関節機能障害」, 2009.1, 岡山.

建内宏重: 股関節の運動学とトレーニング. 日本理学療法士協会現職者講習会「下肢の運動学と理学療法」, 2009.1, 京都.

建内宏重: 姿勢・動作の評価とトレーニングの実際. 京都府理学療法士会 平成20年度第2回新人技術講習会, 2008.12, 京都.

建内宏重: 股関節機能の捉え方と臨床応用. 倉敷平成病院リハビリテーション勉強会, 2008.12, 岡山.

建内宏重: 球関節に関わる身体の機能的運動リンケージ. 阪奈リハビリテーション専門学校 第15回講習会, 2008.11, 大阪.

建内宏重: 姿勢・動作の評価とトレーニングの実際. 京都府理学療法士会 平成20年度第1回新人技術講習会, 2008.11, 京都.

建内宏重: 股関節機能の捉え方と臨床応用. Comprialignment Age's 主催 The second workshop, 2008.11, 高松.

建内宏重: 股関節術後の理学療法に必要な視点. ワンダーフォーゲル & twenty four 第1回講習会, 2008.10, 東京.

建内宏重: 股関節の関節病態運動に基づくリハビリテーション. 元気創造センター技術教育研修セミナー, 2008.10, 大阪.

建内宏重: 股関節の運動学とトレーニング. 日本理学療法士協会現職者講習会「下肢の運動学と理学療法」, 2008.7, 京都.

建内宏重: 運動機能障害に対する理学療法の基本. HAN-DO-TAI 第1回特別研修会, 2008.7, 神戸.

建内宏重: 股関節からみた姿勢制御. 臨床リハビリテーション研究会, 2008.6, 福岡.

建内宏重: 骨・関節の機能と拘縮のメカニズム. 筋の

機能と筋力低下のメカニズム. 日本看護協会 神戸研修センター 教育研修部主催 研修会, 2008.5, 神戸.

学会発表

Ota M, Tateuchi H, Tsuboyama T, Ichihashi N: Age-related changes in the thickness of the hip joint muscles. 10th International Congress of the Asian Confederation for Physical Therapy, 2008.8-9, Chiba.

Nishikawa M, Nankaku M, Tsuboyama T, Nakagawa Y, Nakamura T: Rehabilitation of the patient after total knee arthroplasty with V-Y quadricepsplasty for the ankylosed knee. 10th International Congress of the Asian Confederation for Physical Therapy, 2008.8-9, Chiba.

Nankaku M, Tsuboyama T, Kakinoki R, Iseki K, Nakamura T: Kinetic analysis of the relationship between displacement of center of gravity during walking and walking efficiency in patients with age-related white matter changes. 10th International Congress of the Asian Confederation for Physical Therapy, 2008.8-9, Chiba.

Ogaya S, Ikezoe T, Tsuboyama T, Ichihashi N: Postural control on a wobble board and stable surface in young and elderly people. 10th International Congress of the Asian Confederation for Physical Therapy, 2008.8-9, Chiba.

生友尚志, 永井宏達, 南 純恵, 大畑光司, 坪山直生: 成人脳性麻痺者の腹筋筋厚と自立座位の可否との関係. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

船戸正雄, 大畑光司, 中 徹, 村田雄二, 松永梓, 坪山直生: 成人脳性麻痺者の股関節可動域が腰椎側彎に与える影響. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

永井宏達, 建内宏重, 井上拓也, 太田 恵, 森 由隆, 坪山直生, 市橋則明: 腰椎前彎条件の違いが下肢運動時における体幹筋の筋活動開始時期に及ぼす影響. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

建内宏重, 市橋則明, 坪山直生: 加齢による歩行時足圧分布の変化とその関連要因. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

春田大志, 大畑光司, 坪山直生: 脳性麻痺児の粗大運動能力の縦断的調査. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

井上拓也, 建内宏重, 池添冬芽, 坪山直生, 市橋則明: 高齢者の下肢筋量と運動機能の関連性. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

市橋則明, 池添冬芽, 大畑光司, 建内宏重, 坪山直生: 体幹筋筋厚の加齢変化 加齢による低下率の大きい体幹筋は何か? 第43回日本理学療法学会, 2008.5, 福岡.

南角 学, 神先秀人, 坪山直生, 中村孝志: 転倒時における膝関節屈曲による防御反応と衝撃力の関連性. 第43回日本理学療法学会, 2008.5, 福岡.

大畑光司, 坪山直生, 春田大志, 市橋則明, 中村孝志: 脳性麻痺児における筋厚の成長についての横断的研究. 第43回日本理学療法学会, 2008.5, 福岡.

矢野生子, 大畑光司, 永井宏達, 橋本千恵子, 橋本周三, 坪山直生: 成人脳性麻痺者における中殿筋・内転筋筋厚の測定および筋緊張・関節可動域との関係. 第43回日本理学療法学会, 2008.5, 福岡.

南 哲, 大畑光司, 中 徹, 張 知恵, 吉川麻衣子, 坪山直生: 成人脳性麻痺者の胸郭の動態について超音波画像診断装置を用いた肋骨距離からの検討. 第43回日本理学療法学会, 2008.5, 福岡.

木原健二, 大畑光司, 春田大志, 生友明代, 藪内芳奈, 坪山直生: 重度脳性麻痺者の音響的骨評価値測定における信頼性の検討. 第43回日本理学療法学会, 2008.5, 福岡.

福元喜啓, 大畑光司, 坪山直生, 真多俊博, 市橋則明: 人工股関節全置換術後の立ち上がり動作所要時間に影響を与える因子. 第20回日本運動器リハビリテーション学会, 2008.7, 東京.

太田 恵, 坪山直生, 市橋則明: 整形外科疾患患者に対する体重免荷トレッドミル歩行トレーニングの即時効果. 第20回日本運動器リハビリテーション学会, 2008.7, 東京.

仲俣岳晴, 保坂泰介, 坪山直生, 戸口田淳也, 中山富貴, 中村孝志: 大腿骨遠位部骨腫瘍に対する非蝶番型人工膝関節の使用経験. 第41回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 2008.7, 浜松.

中山富貴, 坪山直生, 戸口田淳也, 仲俣岳晴, 中村孝志: 多発骨転移を生じた粘液型脂肪肉腫の3例. 第41回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 2008.7, 浜松.

森本 剛, 雛田知子, 足立由起, 長尾能雅, 坪山直生: 新たに開発した病棟リスクスコアに基づいた院内転倒・転落対策とその有効性の評価. 転倒予防医学研究会第5回研究集会, 2008.10, 東京.

永井宏達, 井上拓也, 山田陽介, 太田 恵, 小栢進

也, 佐久間香, 塚越 累, 福元喜啓, 今野亜希子, 建内宏重, 池添冬芽, 市橋則明, 坪山直生: 足趾に着目したトレーニングが高齢者の運動機能に及ぼす影響—安全に実施できる非監視型トレーニングの効果—. 第10回日本骨粗鬆症学会, 2008.10, 大阪.

坪山直生: 骨粗鬆症教育セミナー「運動と骨代謝」. 第10回日本骨粗鬆症学会, 2008.10, 大阪.

福元喜啓, 池添冬芽, 坪山直生, 市橋則明: 高齢者における運動機能と股, 膝関節筋力との関連. 第63回日本体力医学会大会, 2008.9, 大分.

竹岡 亨, 大畑光司, 坪山直生, 市橋則明: 高齢者の脊椎アライメントと運動機能の関連性. 第63回日本体力医学会大会, 2008.9, 大分.

和田 治, 立松典篤, 建内宏重, 伊藤浩充, 市橋則明: 股関節内旋可動域が片脚着地動作時の下肢アライメントと筋活動に及ぼす影響. 第63回日本体力医学会大会, 2008.9, 大分.

永井宏達, 建内宏重, 井上拓也, 池添冬芽, 市橋則明, 坪山直生: 高齢者の運動機能と歩行立脚期の各相割合および足圧分布との関連性. 第63回日本体力医学会大会, 2008.9, 大分.

佐久間 香, 池添冬芽, 大畑光司, 塚越 累, 市橋則明: 着地動作時における下肢アライメント改善のための指示の有無が下肢筋活動に与える影響. 第63回日本体力医学会大会, 2008.9, 大分.

市橋則明, 太田 恵, 池添冬芽, 建内宏重, 坪山直生: 体幹筋および股関節周囲筋筋厚の加齢による変化. 第63回日本体力医学会大会, 2008.9, 大分.

井上拓也, 池添冬芽, 永井宏達, 坪山直生, 市橋則明: 後期高齢女性の骨強度と下肢身体組成, 下肢筋力および移動能力との関連. 第63回日本体力医学会大会, 2008.9, 大分.

池添冬芽, 市橋則明, 佐久間 香, 福元喜啓: 大腿直筋伸張時の筋硬度および筋厚の変化について. 第63回日本体力医学会大会, 2008.9, 大分.

池添冬芽, 市橋則明, 西岡弘晶: 加齢による上下肢筋の筋力低下および筋萎縮と日常生活動作能力との関連について. 第50回日本老年医学会学術集会, 2008.6, 千葉.

池添冬芽, 浅川康吉, 島 浩人, 市橋則明: 若年者と高齢者における二重課題に対する対応能力の違いについて. 第43回日本理学療法学会, 2008.5, 福岡.

建内宏重, 市橋則明: 足圧中心位置の段階的調節能力

が立位姿勢制御に与える影響. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

岩下篤司, 吉川卓志, 北村哲郎, 市橋則明: ノルディックハムストリングスエクササイズにおける下肢筋の筋活動. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

佐久間 香, 赤堀強志, 大畑光司, 市橋則明: ステップダウン時の knee-in と下肢筋活動との関係. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

宮坂淳介, 市橋則明, 建内宏重, 森 公彦, 西村純, 中村孝志: バランスボード上でのスクワット動作における下肢筋活動量の筋電図学的検討. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

太田 恵, 建内宏重, 井上拓也, 永井宏達, 森 由隆, 市橋則明: 外乱刺激に対する予測の有無が体幹筋に与える影響. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

岩田幸恵, 建内宏重, 市橋則明: ブリッジ運動における膝および股関節負荷の検討. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

森 公彦, 建内宏重, 市橋則明, 脇田正徳, 金光浩, 水家健太郎, 柴田斉子: 人工膝関節置換術後患者におけるトレーニング施行前後の歩行パターンの即時的变化 下肢協調性改善を目的としたトレーニングの効果. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

小栢進也, 建内宏重, 佐久間 香, 市橋則明: toe-in および toe-out 歩行の筋電図学的解析. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

西村 純, 市橋則明, 南角 学, 中村孝志: スポーツ選手に対するジャンプトレーニングが下肢運動機能に及ぼす影響. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

塚越 累, 大畑光司, 江口 悟, 長島健斗, 伊藤隆治, 奥村秀雄, 市橋則明: 人工股関節置換術患者に対する術後早期ステップトレーニングの効果. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

南角 学, 市橋則明, 柿木良介, 三戸由美子, 川那辺圭一, 中村孝志: 人工股関節置換術術前・術後における腰痛症状の変化の定量的評価 Flexion Relaxation Phenomenonの筋電図学的分析. 理学療法学, 2008: 35: 74.

田中武一, 岡本 敦, 岩田幸恵, 後藤総介, 市橋則明: スクワット時の免荷が下肢筋に与える影響 免荷

方法の違いによる筋電図学的分析. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

池添冬芽, 浅川康吉, 島 浩人, 市橋則明: 不安定板上での立位姿勢制御の加齢変化 指標の有無による違い. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

佐久間 香, 池添冬芽, 小栢進也, 塚越 累, 福元喜啓, 森 由隆, 市橋則明: 片脚立位保持における立脚側股関節内外旋が下肢筋の筋活動に及ぼす影響. 第18回京都府理学療法士学会, 2008.1, 京都.

和田 治, 建内宏重, 太田 恵, 池添冬芽, 市橋則明: 腹筋群筋厚が立位時の骨盤傾斜角度に与える影響. 第48回近畿理学療法学会大会, 2008.11, 大阪.

井上拓也, 池添冬芽, 永井宏達, 田中武一, 木村みさか, 坪山直生, 市橋則明: 加齢による下肢身体組成の変化—多周波数生体電気インピーダンス法を用いた測定—. 第48回近畿理学療法学会大会, 2008.11, 大阪.

小栢進也, 池添冬芽, 曾田直樹, 木村みさか, 市橋則明: 不安定板上での立位バランス練習における短期学習効果の検討—若年者と高齢者の違い—. 第48回近畿理学療法学会大会, 2008.11, 大阪.

塚越 累, 建内宏重, 福元喜啓, 奥村秀雄, 市橋則明: 変形性股関節症患者の歩行能力に影響を及ぼす因子. 第48回近畿理学療法学会大会, 2008.11, 大阪.

福元喜啓, 大畑光司, 塚越 累, 木村みさか, 真多俊博, 市橋則明: 人工股関節全置換術後患者における下肢筋力の回復過程—健常者との比較—. 第48回近畿理学療法学会大会, 2008.11, 大阪.

佐久間 香, 大畑光司, 南角 学, 安井 匡, 市橋則明: 油圧制動足継ぎ手付き短下肢装具の装着が歩行時菌活動に与える影響について. 第48回近畿理学療法学会大会, 2008.11, 大阪.

竹岡 亨, 永井宏達, 建内宏重, 坪山直生, 市橋則明: 高齢者の脊椎アライメントと重心位置および重心動揺との関連性. 第48回近畿理学療法学会大会, 2008.11, 大阪.

塚越 累, 建内宏重, 佐久間 香, 市橋則明: 片脚着地動作時の下肢筋活動様式および膝関節外反角度との関係. 第20回バイオメカニクス学会, 2008.9, 仙台.

曾田直樹, 大畑光司, 太田 恵, 市橋則明: 整形外科疾患患者に対する体重免荷トレッドミル歩行トレーニングが歩容に与える影響. 第20回バイオメカニクス学会, 2008.9, 仙台.

田中武一, 太田 恵, 深澤友勝, 市橋則明: 大腿直筋

の筋厚および羽状角と膝屈曲角度の関係. 第20回バイオメカニクス学会, 2008.9, 仙台.

建内宏重, 市橋則明: 股関節の可動性および股周囲筋筋厚と立位アライメントとの関連性. 第20回バイオメカニクス学会, 2008.9, 仙台.

大畑光司, 市橋則明, 佐久間 香, 南角 学: 立脚中期の底屈筋活動と立脚後期の底屈トルクとの関係. 第20回バイオメカニクス学会, 2008.9, 仙台.

曾田直樹, 池添冬芽, 建内宏重, 太田 恵, 小栢進也, 市橋則明: 若年女性のバランス能力と股関節周囲筋筋厚および筋力との関連性. 第35回日本股関節学会, 2008.12, 大阪.

Kuroki H, Nakagawa Y, Mori K, Kobayashi M, Nakamura S, Nishitani K, Shirai T, Nakamura T: Evaluation of Patellar Cartilage after Autologous Osteochondral Grafting for Knee Trochlea: A Comparison of Macroscopic and Histological Findings and Ultrasound Properties among Three Experimental Models. The 13th ESSKA, 2008.5, Portugal.

Kobayashi M, Nakagawa Y, Nakamura S, Nishitani K, Shirai T, Kuroki H, Nakamura T: Osteochondral Autogenous transfer for an early stage of knee osteoarthritis. The 13th ESSKA, May 24, 2008.5, Portugal.

Oka T, Kuroki H, Furukawa T, Takeuchi Y, Torii Y, Akiyama N: Functional recovery after autologous osteochondral transplantation: comparison between the groups under and over 40 years old. The 10th International Congress of the Asian Confederation for Physical Therapy, 2008.8, Makuhari.

Takeuchi Y, Kuroki H, Nakagawa Y, Kobayashi M, Hoda N, Oka T, Yamaguchi S, Torii Y: Site-specific features and age-related changes of articular cartilage. The 10th International Congress of the Asian Confederation for Physical Therapy, 2008.8, Makuhari.

Torii Y, Kuroki H, Takeuchi Y, Oka T, Yamaguchi S, Hoda N, Kobayashi M, Nakagawa Y: Effect of non-weight-bearing on articular cartilage of knees in a rabbit model. The 10th International Congress of the Asian Confederation for Physical Therapy, 2008.8, Makuhari.

Kuroki H, Takeuchi Y, Torii Y, Oka T, Yamaguchi S, Hoda N, Kobayashi M, Nakagawa Y: Effect of non-weight-bearing on body weight and range of motion after knee surgery: observation using a rabbit model. The 10th International Congress of the Asian Confederation for

Physical Therapy, 2008.8, Makuhari.

Kuroki H, Nakagawa Y, Mori K, Kobayashi M, Nakamura S, Nishitani K, Shirai T, Nakamura T: Ultrasound properties of articular cartilage in patellofemoral joint in knee osteoarthritis: difference between the ICRS grade-0 and grade-1. The 2008 World Congress on Osteoarthritis, 2008.9, Italy.

Nishitani K, Kobayashi M, Mori K, Kuroki H, Shirai T, Nakagawa Y, Nakamura T: DETECTION OF THE EARLY CHANGE OF THE CARTILAGE DEGENERATION WITH FTIR AND ULTRASOUND EVALUATION. The 2008 World Congress on Osteoarthritis, 2008.9, Italy.

小林雅彦, 中川泰彰, 中村伸一郎, 西谷江平, 白井孝昭, 黒木裕士, 中村孝志: 初期変形性膝関節症に対する骨軟骨移植術. 第34回日本関節鏡学会学術集会, 2008.6, 東京都.

西谷江平, 小林雅彦, 中川泰彰, 森 浩二, 黒木裕士, 白井孝昭, 中村孝志: FTIR を用いたヒト関節軟骨の生化学マッピング. 第21回軟骨代謝学会, 2008.3, 京都市.

黒木裕士, 岡 徹, 竹内友季子, 森 浩二, 小林雅彦, 中川泰彰: 重度内側型変形性膝関節症例の関節軟骨の超音波硬度指標と理学療法. 第43回日本理学療法学会学術大会, 2008.5, 福岡市.

竹内友季子, 黒木裕士, 法田奈津子, 山口将希, 岡 徹, 森 浩二, 中川泰彰: 家兎膝関節軟骨における加齢変化と超音波による定量評価指標の検証. 第43回日本理学療法学会学術大会, 2008.5, 福岡市.

岡 徹, 黒木裕士, 水野泰行, 古川泰三, 中川泰彰: 骨軟骨移植術前後における膝機能と QOL の短期経過. 第43回日本理学療法学会学術大会, 2008.5, 福岡市.

法田奈津子, 黒木裕士, 竹内友季子, 桑原 郁, 山口将希, 岡 徹, 小林雅彦, 中川泰彰: 家兎膝関節軟骨の加齢変化は部位によって違う. 第43回日本理学療法学会学術大会, 2008.5, 福岡市.

岡 徹, 黒木裕士, 水野泰行, 古川泰三, 中川泰彰: 膝離断性骨軟骨炎に対する骨軟骨移植術後の膝機能—4 症例の短期経過—. 第33回日本膝関節学会学術集会, 2008.6, 東京都.

黒木裕士: 地域理学療法. 京都大学オープンコースウェア総長懇談会. 2008.6, 京都市.

岡 徹, 黒木裕士, 古川泰三, 水野泰行, 中川泰彰: 膝関節骨・軟骨疾患に対する骨軟骨移植術後の膝機能—術後1年間の経時的変化. 第20回日本運動器リハビリテーション学会, 2008.7, 東京都.

黒木裕士, 中川泰彰, 森 浩二, 小林雅彦, 西谷江平, 白井孝昭, 中村伸一郎, 中村孝志: 超音波硬度指標は関節軟骨様組織表層の脆弱性を検出しその劣化を予測できるか. 第23回日本整形外科学会基礎学術集会, 2008.10, 京都市.

岡 徹, 黒木裕士, 秋山奈菜子, 水野泰行, 古川泰三, 中川泰彰: 内側膝蓋大腿靭帯再建術後の理学療法経験. 第48回近畿理学療法学会大会, 2008.11, 大阪市.

岡 徹, 黒木裕士, 秋山奈菜子, 長谷川 聡, 古川泰三, 水野泰行: 少年野球選手に対するメディカルチェックを実施して—スポーツ障害の予防と啓蒙活動—. 第19回京都府理学療法士学会, 2008.12, 京都市.

Komada M, Saito H, Kinboshi M, Miura T, Shiota K, Ishibashi M: Hedgehog signalling is involved in development of the mammalian neocortex. 日本発生物学会, 2008, 徳島.

Komada M, Saito H, Kinboshi M, Miura T, Shiota K, Ishibashi M: Hedgehog signalling is involved in development of the mammalian neocortex. European Society for Evolutionary Developmental Biology Ghent, 2008, Belgium.

三浦 岳, 石橋 誠, 塩田浩平: 鳥類肺の発生における近遠位マーカーの発現. 日本解剖学会, 2009, 岡山.

趙 蘭英, 才津浩智, 塩田浩平, 石橋 誠: Smo conditional knockout マウスにおける眼の発生異常メカニズムの解析. 日本解剖学会, 2009, 岡山.

玉木 彰, 大島洋平, 解良武士, 越久仁敬: ペダリング運動における運動—呼吸同調現象と肺機能の関係. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

長谷川 聡, 新宮信之, 高木 彩, 三戸由美子, 藤田容子, 西川 徹, 伊藤太祐, 玉木 彰, 園部 誠, 中村孝志: 肺切除術における皮膚切開長および切除領域が術後経過に及ぼす影響. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

高木 彩, 長谷川 聡, 新宮信之, 南角 学, 藤田容子, 西川 徹, 伊藤太祐, 玉木 彰, 渡辺 剛, 中村孝志: 食道癌術後における肺合併症に影響を及ぼす因子の検討. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

大島洋平, 玉木 彰, 解良武士, 越久仁敬: 運動—呼吸同調システムを用いた低強度ペダリング運動における呼吸パターンの変化—一回換気量に着目して. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

解良武士, 玉木 彰, 大島洋平: 低強度での呼吸運動同調現象誘発が呼吸運動出力へ与える影響. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

新宮信之, 長谷川 聡, 高木 彩, 藤田容子, 三戸由美子, 西川 徹, 南角 学, 玉木 彰, 園部 誠, 中村孝志: 肺癌外科術後患者における喫煙歴が周術期の呼吸機能および運動耐容能に与える影響. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

永淵輝佳, 立山真治, 永富孝幸, 生友尚志, 玉木 彰, 山田真一, 米田 稔, 前田 香, 綾田裕子: バンカート修復後の固定期間短縮による可動域の経時的変化. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

宮本俊明, 丸岡 満, 森本和彦, 岡本 敦, 馬場綾子, 玉木 彰, 池添冬芽: パーキンソン症候群の方向転換運動に外的 cue が与える影響. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

大島洋平, 玉木 彰, 越久仁敬: Locomotor Respiratory Coupling 解析ソフトの開発. 生体医工学シンポジウム2008, 2008.9, 大阪.

玉木 彰, 長谷川 聡, 陳 和夫, 三嶋理晃: 肺移植患者の身体機能と QOL—術後3年以上経過した症例の現状. 第18回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 2008.10, 愛媛.

大島洋平, 玉木 彰, 解良武士, 越久仁敬: 自由呼吸下での運動—呼吸リズム比が運動—呼吸同調現象誘発時の同調性に与える影響. 第18回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 2008.10, 愛媛.

金沢星慶, 大島洋平, 玉木 彰: 喀痰喀出のための呼吸法の検討. 第18回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 2008.10, 愛媛.

長谷川 聡, 新宮信之, 高木 彩, 西川 徹, 玉木 彰, 園部 誠, 阪井宏彰, 高橋憲一, 中村孝志: 肺癌切除術におけるリハビリテーション—肺切除量・年齢・喫煙歴・肺機能からみたりハビリテーション介入の必要性. 第18回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 2008.10, 愛媛.

新宮信之, 長谷川 聡, 高木 彩, 西川 徹, 玉木 彰, 園部 誠, 阪井宏彰, 高橋憲一, 中村孝志: 肺癌切除術症例における周術期呼吸機能および運動耐容能と喫煙歴の関係. 第18回日本呼吸ケア・リハビリテー

ション学会, 2008.10, 愛媛.

高木 彩, 長谷川 聡, 新宮信之, 南角 学, 玉木 彰, 渡辺 剛, 中村孝志: 食道癌後肺合併症の危険因子の検討. 第18回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 2008.10, 愛媛.

塩谷隆信, 佐竹将宏, 玉木 彰, 藤井清佳, 渡邊暢, 清川憲孝, 笠井千景, 菅原慶勇, 高橋仁美, 本間光信: 吸気筋トレーニングは呼吸リハビリテーションに必要な種目か? 第18回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 2008.10, 愛媛.

池田耕二, 玉木 彰, 山本秀美, 中田加奈子: 認知症後期高齢患者の理学療法実践における「実践知」の構造化のに向けた事例研究—構造構成的質的研究法をメタ研究法としたメモリーワークと M-GTA のトライアングレーションを通して—. 第48回近畿理学療法学術大会, 2008.11, 大阪.

中田加奈子, 池田耕二, 山本秀美, 玉木 彰: 身体機能低下を伴った認知症高齢患者に対する理学療法経験. 第18回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 2008.10, 愛媛.

立松典篤, 紙谷 司, 坪山直生, 玉木 彰: 超音波画像による横隔膜筋厚と吸気筋力の関係について. 第19回京都府理学療法士学会, 2008.12, 京都.

金沢星慶, 大島洋平, 大寺祥佑, 立松典篤, 玉木 彰: 肺気量位の違いが呼吸筋酸素消費量および呼吸困難感に及ぼす影響. 第19回京都府理学療法士学会, 2008.12, 京都.

大島洋平, 紙谷 司, 柴田幸江, 玉木 彰: 高所低酸素状況下において口すぼめ呼吸は有効か?—2008年フジ登山にて—. 第19回京都府理学療法士学会, 2008.12, 京都.

木内隆裕, 南 千尋, 松林 潤, 大畑光司, 三谷章: 足関節の運動イメージが大脳皮質運動野の活動に与える影響 脳磁図を用いた研究. 第43回日本理学療法学術大会, 2008.5, 福岡.

大畑光司: 脳損傷後片麻痺患者に対する装具による筋活動のコントロール 底屈制動装具による使用基準の確立に向けて. 第43回日本理学療法学術大会, 2008.5, 福岡.

Aoyama T, Toguchida J, et al: Intrinsic epigenetic regulators determine the expression of lineage-specific gene in mesenchymal stem cells. ISSCR 6th Annual Meeting, 2008.6, USA.

Ito K, Aoyama T, et al: Development of a new device using the nonwoven fabrics for isolation of mesenchymal stem cells from bone marrow. ISSCR 6th Annual Meeting, 2008.6, USA.

青山朋樹, 光野芳樹, 他: 内因性ヒストンテール修飾因子によるコンドロモジュリン-I 遺伝子発現制御機構の解析. 第21回日本軟骨代謝学会, 2008.3, 京都.

青山朋樹, 長谷川 聡, 他: 両側有痛性白股症に対する治療経験. 第45回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2008.6, 横浜.

青山朋樹, 大塚聖視, 他: 新規 Prostaglandin E2 (PGE2) 受容体特異的作動薬を用いた関節軟骨欠損治療薬の開発. 第29回日本炎症・再生医学会, 2008.7, 東京.

青山朋樹, 大塚聖視, 他: 分化誘導プロファイルを用いた肉腫細胞の起源へのアプローチ. 第41回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会, 2008.7, 浜松.

青山朋樹, 大塚聖視, 他: プロスタグランジン E2 受容体特異的作動薬を用いた関節軟骨欠損治療薬の開発. 第23回日本整形外科学会基礎学術集会, 2008.10, 京都.

青山朋樹, 光野芳樹, 他: 内因性ヒストンテール修飾因子によるコンドロモジュリン-I 遺伝子発現制御機構の解析. BMB2007, 2008.3, 名古屋.

窪田愛恵, 矢野義孝, 森本 剛, 高田香織, 関進, 前田祐子, 赤池昭紀, 平出 敦: 薬学 OSCE での患者対応課題における評価項目に関する検討. 第18回日本医療薬学会年会講演要旨集, 2008: 275.

森本 剛, 蔵本伸生, 井関太美, 関 進, 窪田愛恵, 前田祐子, 高田香織, 平出 敦: 臨床実習での経験を生かすチュートリアル. 医学教育39補冊, 2008: 96.

窪田愛恵, 森本 剛, 高田香織, 蔵本伸生, 関進, 前田祐子, 矢野義孝, 赤池昭紀, 平出 敦: 薬学 OSCE における患者対応に関する評価の課題. 医学教育39補冊, 2008: 124.

前田祐子, 森本 剛, 関 進, 高田香織, 窪田愛恵, 平出 敦: 医療人に対する英語教育の新たな試み. 医学教育39補冊, 2008: 53.

関 進, 森本 剛, 前田祐子, 窪田愛恵, 高田香織, 蔵本伸生, 平出 敦: 医療面接における非言語的コミュニケーションの分析. 医学教育39補冊, 2008: 34.

高田香織, 森本 剛, 蔵本伸生, 窪田愛恵, 前田祐子, 関 進, 平出 敦: 授業評価の3年間における経年的変化. 医学教育39補冊, 2008: 144.

窪田愛恵, 矢野義孝, 高倉喜信, 佐治英郎, 高田香織, 関 進, 前田祐子, 森本 剛, 平出 敦, 赤池昭紀: 模擬患者を用いた薬学系 OSCE における医療面接の経験. 第17回日本医療薬学会年会講演要旨集, 2007: 285.

島 浩人, 池添冬芽: 施設入所高齢者におけるバランス能力および二重課題能力と転倒との関連について. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5, 福岡.

西岡弘晶, 井口光孝, 加藤諭美, 園 真廉, 浅岡裕子, 梅村聡美, 壁谷めぐみ, 中西敏博, 日比 聡, 武内有城, 池添冬芽: 高齢者の栄養アセスメントにおける身体計測法の検討. 第23回静脈経腸栄養学会, 2008.2, 京都.

佐藤久友, 建内宏重, 高山竜二, 大野博司, 佐浦隆一: 足部疼痛を有する人工膝関節置換術後症例に対する足底板の効果. 第48回近畿理学療法学会大会, 2008.11, 大阪.

太田善行, 樋下哲也, 佐藤久友, 建内宏重, 高山竜二, 熊田 仁, 大野博司, 佐浦隆一: 肘関節角度および前腕肢位の違いによる安静時棘下筋活動. 第5回肩の運動機能研究会, 2008.11, 大阪.

佐藤久友, 建内宏重, 笠野由布子, 高山竜二, 熊田仁, 梶田真弘, 大野博司, 山口 淳: 足趾が立ち上がり動作直後の立位姿勢制御に与える影響. 第43回日本理学療法学会大会, 2008.5.

Yamada M, Kawachi T, Morioka S, Kawamata T: Effect of cognitive intervention on motor learning: a randomized controlled trial. ACPT, 2008.8, 千葉.

山田 実, 河内 崇, 川又敏男: 知覚学習は手指巧緻性を向上させる. 神経系理学療法, 2008.12, 大阪.

山田 実: 特定高齢者における作業記憶と転倒との関係. 第48回近畿理学療法学会大会, 2008.11, 大阪.

山田 実, 樋口貴広, 森岡 周: 整形外科的疾患患者におけるリハビリテーションに運動イメージトレーニングは有用か?—肩関節周囲炎患者を対象とした検討—. 第13回認知神経科学学会, 2008.7, 東京.

山田 実, 森岡 周: 慢性腰痛患者では腰部の運動イメージ想起能力が低下している? 第13回認知神経科学学会, 2008.7, 東京.

山田 実, 樋口貴広, 河内 崇: 整形外科的疾患では

運動イメージの想起が困難となるのか? 第43回日本理学療法学会, 2008.5, 福岡.

山田 実, 河内 崇, 小野 玲: 転倒リスク評価としての Trail walking test の有用性. 第43回日本理学療法学会, 2008.5, 福岡.

山田 実, 河内 崇: 注意機能トレーニングによって転倒を予防することが可能となるのか? 第43回日本理学療法学会, 2008.5, 福岡.

山田 実, 松本大輔: 運動イメージ想起能力はハムストリングス肉離れの発生と関係しているのか?—大学ラグビー選手を対象とした前向き研究—. 第22回日本体力医学会近畿地方会, 2008.5, 大阪.

作業療法学講座 (OT)

著 書

山根 寛: 作業療法の詩—ふたたび. 東京: 青海社, 2008.

山根 寛: 精神保健福祉白書2009. 精神保健福祉白書編集委員会編, 東京: 中央法規, 2008: 157.

山根 寛: 治療・援助における二つのコミュニケーション. 東京: 三輪書店, 2008.

山根 寛: 精神障害のリハビリテーションと社会復帰. 松山三郎責任編集, 専門医のための精神科臨床リュミエール第4巻, 東京: 中山書店, 2008: 42-52.

原著論文

Maezawa H, Yoshida K, Nagamine T, Matsubayashi J, Enatsu R, Bessho K, Fukuyama H: Somatosensory evoked magnetic fields following electric tongue stimulation using pin electrodes. Neuroscience Research, 2008; 62(2): pp. 131-139.

Enatsu R, Mikuni N, Usui K, Matsubayashi J, Taki J, Begum T, Matsumoto R, Ikeda A, Nagamine T, Fukuyama H, Hashimoto N: Usefulness of MEG magnetometer for spike detection in patients with mesial temporal epileptic focus. Neuroimage 2008; 41(4): pp. 1206-1219.

Takasaki C, Okada R, Mitani A, Fukaya M, Yamasaki M, Fujihara Y, Shirakawa T, Tanaka K, Watanabe M: Glutamate transporters regulate lesion-induced plasticity in the developing somatosensory cortex. J Neurosci, 2008; 28: 4995-5006.

山根 寛: 心身統合の喪失と回復—コミュニケーションプロセスとしてみる作業療法の治療機序. 作業療法, 2008: 27: 73-82.

能村友紀, 二木淑子, 能登谷晶子: 地域高齢者の転倒

恐怖感による活動制限に影響を及ぼす要因. 金沢大学 つま保健学会誌, 2008 : 31(2) : 15-24.

石田さおり, 二木淑子, 白井はる奈, 高原世津子, 能登谷晶子: 認知症者の握力における3タイプの測定方法および嚥下障害の関連性の検討. 健康科学: 京都大学医学部保健学科紀要4号, 2008 : 31-37.

総説・その他

山根 寛, 香山明美, 大丸 幸, 荻原喜茂, 棚沢直美, 小林正義, 坂井一也, 鶴見隆彦: 精神科病院入院患者の早期退院促進プログラム開発および地域生活移行のシステム構築に向けた研究. 平成19年度障害者保健福祉推進事業研究報告, 2008.

加藤寿宏: 発達障害における連携と工夫 子どもを支える家族との連携. 臨床作業療法, 2008 : 5 : 214-218.

加藤寿宏: 発達障害がある子どもと家族を支える家族面接のコツ. OT ジャーナル, 2008 : 42 : 1345-1348.

宮本真己, 美濃由紀子, 佐藤るみ子, 山根 寛, 他: 他害行為を行った精神障害者の看護に関する研究. 平成19年度厚生労働科学研究「他害行為を行った精神障害者の診断, 治療および社会復帰支援に関する研究」分担研究報告, 2008.

腰原菊恵: 作業療法面接のコツ! インテーク面接のコツ 精神障害. 作業療法ジャーナル, 2008 : 42(3) : 229-233.

腰原菊恵, 山根 寛, 岩佐順子, 金井伸恵: 暮らしを奪わない作業療法の実践 早期作業療法の導入における評価とポイント. 臨床作業療法, 2008 : 4(6) : 467-471.

白井はる奈, 谷川良博: 暗黙知をことばにする参加型研修会の試み—援助者が共に育つために—. 認知症ケア事例ジャーナル, 2008 : 1(3) : 333-338.

講演

Yamane H: Mental health system and occupational therapy in Japan. 2008 Korean Occupational Therapy Congress, 2008 ; 11.

山根 寛: とともに生き, とともに暮らす—使おう! 活かそう! 作業療法の知恵と輪. 第39回北海道作業療法学会, 2008.11, 千歳.

山根 寛: 精神科におけるチーム医療の必要性. 第1回秋田精神科チーム医療研究会, 2008.11, 秋田.

腰原菊恵: 精神障害の作業療法—事例検討—. 日本作業療法士協会生涯教育講座, 2008.9, 岡山.

腰原菊恵: 精神障害者に対するリハビリテーション—周囲の関わり方—. 東山保健所家族会, 2008.

稲橋秀樹, 内田達二, 白井はる奈, 中西誠司, 村田康子: 認知症をもつ人への作業療法再考. 第42回日本作業療法学会 ワークショップ25, 2008.6, 長崎.

白井はる奈: 熟達作業療法士になるために必要なこと. 福岡県作業療法士会 平成20年度 教育部認知症分野研修会, 2008.8, 福岡.

学会発表

山根 寛: 作業療法の治療機序: 作業—生活機能モデルの提唱. 第42回日本作業療法学会, 2008.6. 長崎.

栗山康弘, 山根 寛: 重症精神障害者を地域で支える: ACT-J, ACT-K の試みから見る課題. 第42回日本作業療法学会, 2008.6, 長崎.

香山明美, 山根 寛, 大丸 幸, 荻原喜茂, 棚沢直美, 小林正義, 鶴見隆彦, 坂井一也: 精神科病院入院患者の早期退院促進プログラム開発および地域生活以降システム構築に向けた研究. 第42回日本作業療法学会, 2008.6, 長崎.

細田勝世, 池田健太郎, 山根 寛: 問題行動を繰り返す症例に対する関わりを振り返って. 第42回日本作業療法学会, 2008.6, 長崎.

腰原菊恵, 山根 寛, 岩佐順子, 金井伸恵, 林 拓二: 精神科作業療法の効果—観察と自律神経機能の比較の試みより—. 第42回日本作業療法学会, 2008.6, 長崎.

岩佐順子, 腰原菊恵, 山根 寛, 吉岡隆一: 長期入院患者の社会生活支援の一例. 第42回日本作業療法学会, 2008.6, 長崎.

金井伸恵, 西井真希, 岩佐順子, 腰原菊恵, 山根寛: 精神科デイケアにおける入院・外来共通プログラムの試みと課題—音楽プログラムにおける治療構造の変化を通して—. 第42回日本作業療法学会, 2008.6, 長崎.

白井はる奈, 白井壯一, 宮口英樹: 重度認知症高齢者に対する作業療法介入ストラテジーの探索—熟練者へのインタビューを通して—. 第42回日本作業療法学会, 2008.6, 長崎.

武山直義, 白井はる奈, 腰原菊恵, 山根 寛, 早川宏子: フラワーアレンジメントの効用と作業プログラムへの活用について. 第42回日本作業療法学会, 2008.6, 長崎.

前原果奈, 二木淑子, 高原世津子, 白井はる奈: 認知

症高齢者を対象とした課題の遂行を促す方法の探索—視聴覚的支援機器用ビデオの作成と4症例での試用について—。認知症ケア学会, 2008.

井口知也, 二木淑子, 能登谷晶子, 伊藤斉子: 日本作業療法学会発表演題からみた老年期領域で提供されている作業活動—認知症高齢者を対象とした「作業活動リスト面接法」開発にむけて。作業行動研究, 2008: 11(2): 139.

高木玉紀, 新井紀子, 灘 裕介, 加藤寿宏: 学校教育と作業療法の連携を目指す京都府作業療法士会特別支援教育 OT チーム。第42回日本作業療法学会, 2008. 6, 長崎.

第十麻紀, 加藤寿宏: 小学校通常学級における発達障害児への作業療法支援。日本 LD 学会第17回大会, 2008, 広島.

第十麻紀, 加藤寿宏: 学校教育にとけこむ作業療法支援。第26回日本感覚統合学会研究大会, 2008, 大分.

高原世津子, 二木淑子: 高齢者に対する遂行機能トレーニングの効果—認知機能指標・QOL 指標を使用して—。日本高次脳機能障害学会, 2008. 11.

富永 渉, 出口陽一郎, 中村めぐみ, 松林 潤, 三谷章: 手の鏡像による大脳皮質一次運動野の興奮変化。第42回日本作業療法学会, 2008. 6, 長崎.

松林 潤, 富永 渉, 三谷 章: 手の鏡像による大脳皮質感覚運動野の興奮変化。第38回日本臨床神経生理学会・学術大会, 2008, 兵庫.

富永 渉, 出口陽一郎, 松林 潤, 三谷 章: 鏡治療と大脳皮質運動野興奮性の関係—脳磁図を用いた検討。コ・メディカル形態機能学会第7回学術集会, 2008, 愛知.

中村めぐみ, 富永 渉, 松林 潤, 三谷 章: 座位での運動プログラムが高齢者下肢運動機能に及ぼす効果。第42回日本作業療法学会, 2008. 6, 長崎.

南 千尋, 松林 潤, 木内隆裕, 松橋眞生, 三谷章: ワーキングメモリ課題における記憶負荷に伴う脳磁場活動。第32回日本高次脳機能学会学術総会, 2008, 松山.

木内隆裕, 南 千尋, 松林 潤, 三谷 章: 運動イメージによる 20 Hz 律動脳磁場の抑圧現象は下肢にも応用できるか? 第42回日本作業療法学会, 2008. 6, 長崎.

南 千尋, 松林 潤, 木内隆裕, 松橋眞生, 三谷章: 視覚情報を一時的に保持しているときの脳磁場活

動。第42回日本作業療法学会, 2008. 6, 長崎.

木内隆裕, 南 千尋, 松林 潤, 大畑光司, 三谷章: 足関節の運動イメージが大脳皮質運動野の活動に与える影響—脳磁図を用いた研究—。第43回日本理学療法士学術大会, 2008, 博多.

近未来型人間健康科学融合ユニット

原著論文

Yamashita S, Bujo H, Arai H, Harada-Shiba M, Matsui S, Fukushima M, Saito Y, Kita T, Matsuzawa Y: Long-term probucol treatment prevents secondary cardiovascular events: a cohort study of patients with heterozygous familial hypercholesterolemia in Japan. *J Atheroscler Thromb*, 2008; 15: 292-303.

Sugimoto M, Arai H, Tamura Y, Murayama T, Khaengkhan P, Nishio T, Ono K, Ariyasu H, Akamizu T, Ueda Y, Kita T, Harada S, Kamei K, Yokode M: Mulberry leaf ameliorates the expression profile of adipocytokines by inhibiting oxidative stress in white adipose tissue in db/db mice. *Atherosclerosis*, 2009; 204: 388-394.

Tamura Y, Sugimoto M, Murayama T, Ueda Y, Kanamori H, Ono K, Ariyasu H, Akamizu T, Kita T, Yokode M, Arai H: Inhibition of CCR2 ameliorates insulin resistance and hepatic steatosis in db/db mice. *Arterioscler Thromb Vasc Biol*, 2008; 28(12): 2195-201.

Shimano H, Arai H, Harada-Shiba M, Ueshima H, Ohta T, Yamashita S, Gotoda T, Kiyohara Y, Hayashi T, Kobayashi J, Shimamoto K, Bujo H, Ishibashi S, Shirai K, Oikawa S, Saito Y, Yamada N: Proposed guidelines for hypertriglyceridemia in Japan with non-HDL cholesterol as the second target. *J Atheroscler Thromb*, 2008; 15(3): 116-21.

Arai H, Nagai K, Doi T: Role of growth arrest-specific gene 6 in diabetic nephropathy. *Vitam Horm*, 2008; 78: 375-392

Komori H, Arai H, Kashima T, Huby T, Kita T, Ueda Y: Co-expression of CLA-1 and human PDZK1 in murine liver modulates HDL cholesterol metabolism. *Arterioscler Thromb Vasc Biol*, 2008; 28(7): 1298-303.

Mima A, Arai H, Matsubara T, Abe H, Nagai K, Tamura Y, Torikoshi K, Araki M, Kanamori H, Takahashi T, Tominaga T, Matsuura M, Iehara N, Fukatsu A, Kita T, Doi T: Urinary Smad1 is a novel marker to predict later onset of mesangial matrix expansion in diabetic

nephropathy. *Diabetes*, 2008 ; 57 : 1712-22.

Inada A, Kanamori H, Arai H, Akashi T, Araki M, Weir GC, Fukatsu A: A model for diabetic nephropathy: advantages of the inducible cAMP early repressor transgenic mouse over the streptozotocin-induced diabetic mouse. *J Cell Physiol*, 2008 ; 215 : 383-391.

Doi T, Mima A, Matsubara T, Tominaga T, Arai H, Abe H: The current clinical problems for early phase of diabetic nephropathy and approach for pathogenesis of diabetic nephropathy. *Diabetes Res Clin Pract*, 2008 ; 82 : S21-4.

総説・その他

荒井秀典:【脂質異常症 基本を踏まえた実践】こんな病態にはどうすべきか? 高齢者に必要な薬物療法とその安全性, *内科*, 2009 : 103(1) : 116-119.

荒井秀典: 専門医に求められる最新の知識 メタボリックシンドローム. *CIRCULATION Up-to-Date*, 2008 ; 3(4) : 560-565.

荒井秀典: MCP-1 経路遮断による内臓脂肪蓄積抑制とインスリン抵抗性改善効果の検討. *Therapeutic Research*, 2008 ; 29(8) : 1299-1304.

荒井秀典: 高齢者の薬物療法 副作用と注意すべきポイント 内分泌 代謝疾患の薬物療法. *Journal of Clinical Rehabilitation*, 2008 ; 17(4) : 383-388.

荒井秀典:【高齢者における薬物療法 併用療法のあり方と注意点, 合剤開発の現状】高齢者の脂質異常症における併用療法のあり方と注意点, 合剤開発の現状. *Geriatric Medicine*, 2008 ; 46(4) : 327-331.

荒井秀典:【脂質代謝異常症診療の新展開】脂質代謝異常症の分子疫学 日本人の血清脂質, ホルモンと臨床, 2008 : 56(3) : 235-240.

荒井秀典:【脳卒中の危険因子としての脂質異常症】フィブラートの効果 VA-HIT を中心に. 成人病と生活習慣病, 2008 : 38(2) : 180-184.

学会発表

Tamura Y, Arai H, Sugimoto M, Murayama T, Ueda Y, Kanamori H, Ono K, Ariyasu H, Akamizu T, Kita T, Yokode M: Inhibition of C-C Chemokine Receptor-2 Improves Insulin Resistance and Hepatic Steatosis in Db/db Mice. American Diabetes Association's 68th Scientific Sessions, 2008.6, San Francisco.

Mima A, Arai H, Matsubara T, Abe H, Tominaga T, Takahashi T, Matsuura M, Iehara N, Fukatsu A, Kita T, Doi T: Novel diagnostic marker, urinary Smad1 can

predict mesangial matrix expansion in diabetic nephropathy of two rodent models. American Diabetes Association's 68th Scientific Sessions, 2008.6, San Francisco.

Arai H, Tamura Y, Sugimoto M, Murayama T, Ueda Y, Kanamori H, Ono K, Ariyasu H, Akamizu T, Kita T, Yokode M: Inhibition of CCR2 ameliorates Insulin Resistance and Hepatic Steatosis in Db/db Mice. 77th EAS Congress, 2008.4, Turkey.

Mima A, Matsubara T, Arai H, Abe H, Iehara N, Kita T, Doi T, Fukatsu A: Blockade of Src/Smad1 pathway attenuates the progression of peritoneal sclerosis in mouse experimental model. The 12th Congress of the International Society for Peritoneal Dialysis, 2008.6, Turkey.

金森弘志, 土井俊夫, 荒井秀典: 糖尿病性腎症の進展における一酸化窒素合成酵素の意義. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 2008.5, 東京国際フォーラム.

美馬 晶, 荒井秀典, 松原 雄, 安部秀斉, 高橋利和, 荒木 真, 鳥越和雄, 家原典之, 深津敦司, 北徹, 土井俊夫: Src/Smad1 経路は糸球体腎炎発症進展において中心的な役割を演じる. 第51回日本腎臓学会, 2008.5-6, 福岡国際会議場.

松原 雄, 長井幸二郎, 柳田素子, 美馬 晶, 金森弘志, 家原典之, 深津敦司, 土井俊夫, 荒井秀典: 加齢に伴う糸球体変化における Growth arrest specific gene 6 (Gas6) の役割とそのシグナル解析. 第51回日本腎臓学会, 2008.5-6, 福岡国際会議場.

金森弘志, 田村行識, 松原 雄, 美馬 晶, 荒木 真, 鳥越和雄, 家原典之, 深津敦司, 横出正之, 北徹, 荒井秀典: 2型糖尿病性腎症における CCR2 アンタゴニストの意義. 第51回日本腎臓学会, 2008.5-6, 福岡国際会議場.

西岡弘晶, 和田泰三, 荒井秀典: 終末期医療に関する後期高齢者の意識調査. 第50回日本老年医学会学術集会, 2008.6, 幕張メッセ国際会議場.

荒井秀典: ランチョンセミナー 脳・心血管イベントの制圧をめざしたコレステロール吸収制御の重要性. 第50回日本老年医学会学術集会, 2008.6, 幕張メッセ国際会議場.

荒井秀典, 山下静也: シンポジウム 低 HDL コレステロール血症の治療. 第40回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 2008.7, つくば国際会議場.

杉本正志, 荒井秀典, 田村行識, 村山敏典, 尾野 亘, 上田之彦, 北 徹, 亀井加恵子, 横出正之: 桑

葉は酸化ストレスの抑制により脂肪組織における炎症とインスリン抵抗性を改善する. 第40回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 2008.7, つくば国際会議場.

荒井秀典: メタボリックシンドロームに対する食事・運動療法による効果の検討. 高尿酸血症・メタボリックシンドロームリサーチフォーラム第4回研究会, 2008.7, 大阪ホテルグランビア.

荒井秀典: 心血管イベントの制圧をめざした新しい脂質異常症の治療戦略. 第58回日本体質医学会ランチョ

ンセミナー, 2008.9, 京都メルパルク.

荒井秀典: 脳・心血管イベント抑制を目指したコレステロール吸収制御の臨床的意義. 第46回日本糖尿病学会九州地方会ランチョンセミナー, 2008.10, 石橋文化センター.

荒井秀典, 北 徹: メタボリックシンドロームに対する食事・運動療法による効果の検討. 第29回日本肥満学会, 2008.10, 大分全日空ホテル.